

令和2年7月豪雨復旧・復興本部会議（第11回）

日 時：令和5年3月22日（水）13時30分～

場 所：審議会室

次 第

1 開 会

2 本部長（知事）挨拶

3 議 事

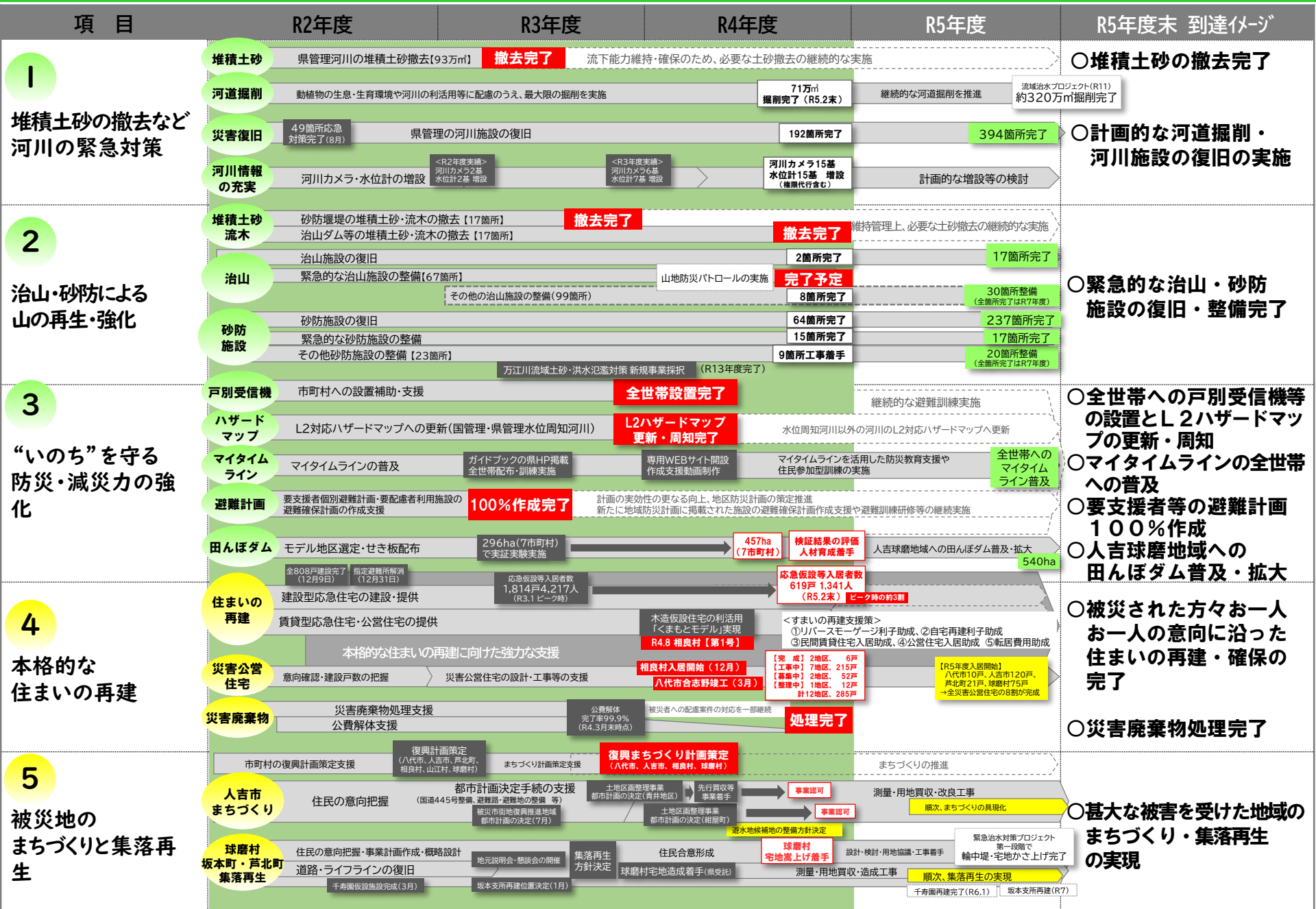
(1) 令和2年7月豪雨からの復旧と創造的復興に向けた取組み … 資料1、資料2

(2) 「緑の流域治水」の取組み等の見える化 … 資料3

(3) 広域本部・地域振興局からの報告 … 資料4

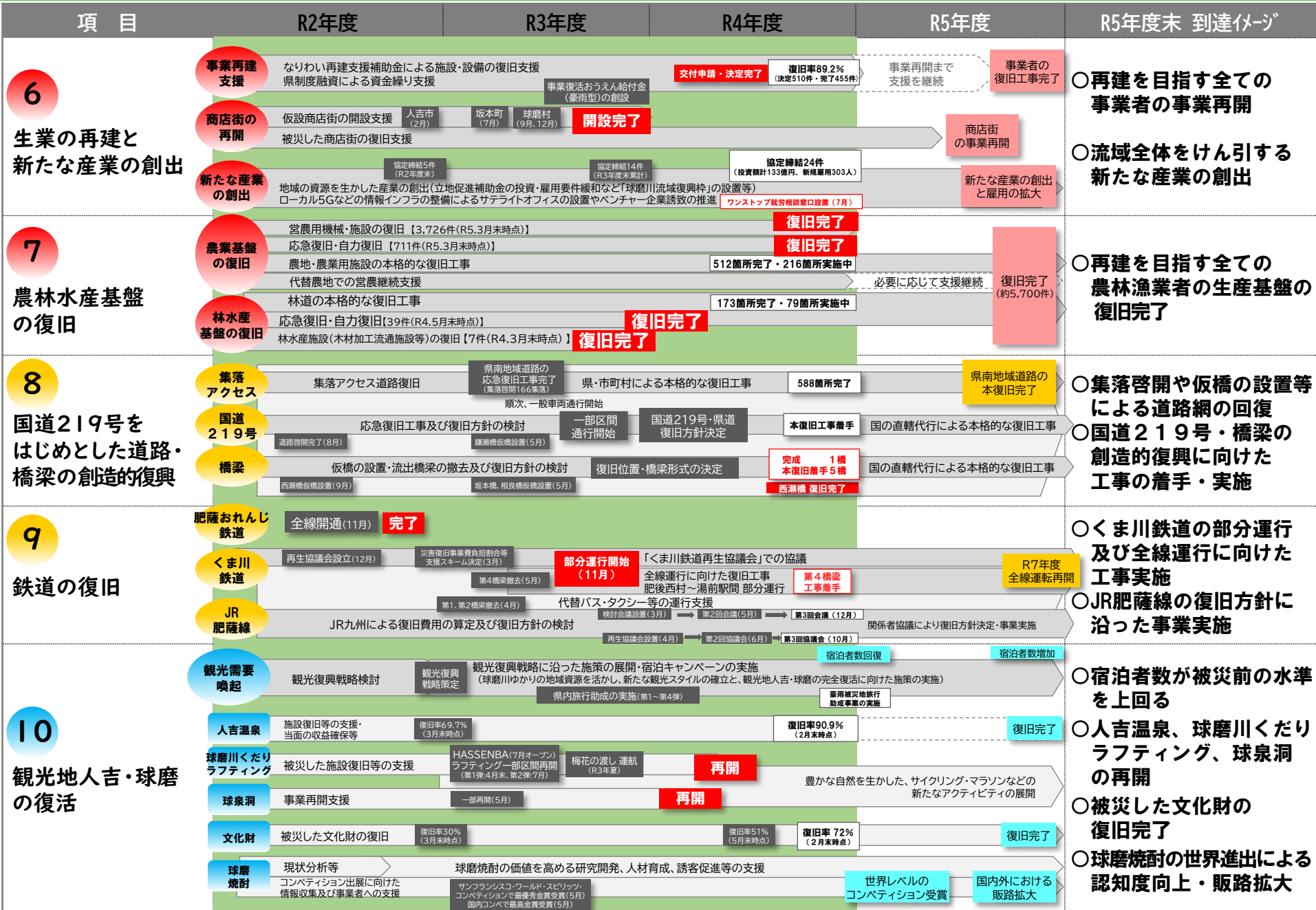
4 閉 会

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目 資料1 1



※上記の達成率等には、特別な事情により復旧等が困難な場合は含まれません。

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目



※上記の達成率等には、特別な事情により復旧等が困難な場合は含まれません。

令和2年7月豪雨からの 復旧と創造的復興に向けた取組み

令和5年(2023年)3月22日

熊 本 県

緑の流域治水

生命・財産を守る安全・安心の最大化と
環境への影響の最小化のベストミックス

球磨川水系河川整備計画の策定について

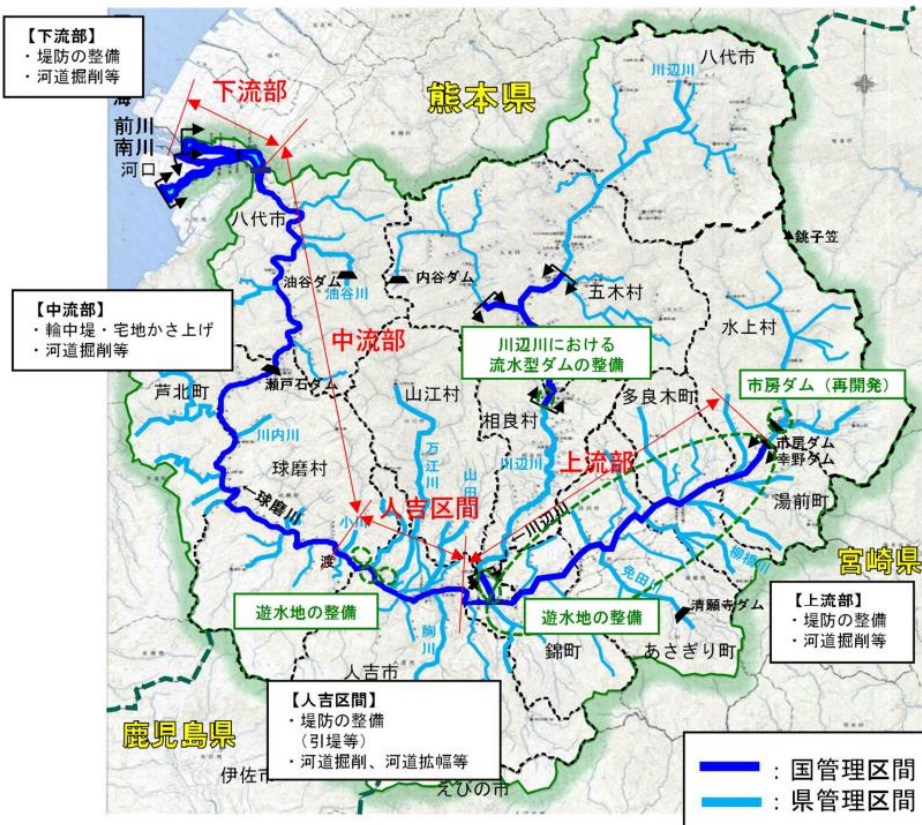
- 国土交通省九州地方整備局と熊本県では、「緑の流域治水」を理念とした、球磨川の今後おおむね30年間の具体的な河川整備の目標や内容を示す「**球磨川水系河川整備計画**」を令和4年8月9日に策定。
- 球磨川流域の一日も早い創造的復興に向け、住民の皆様とコミュニケーションを取りながら、この計画に基づく整備を推進。

主な治水事業(国管理区間)

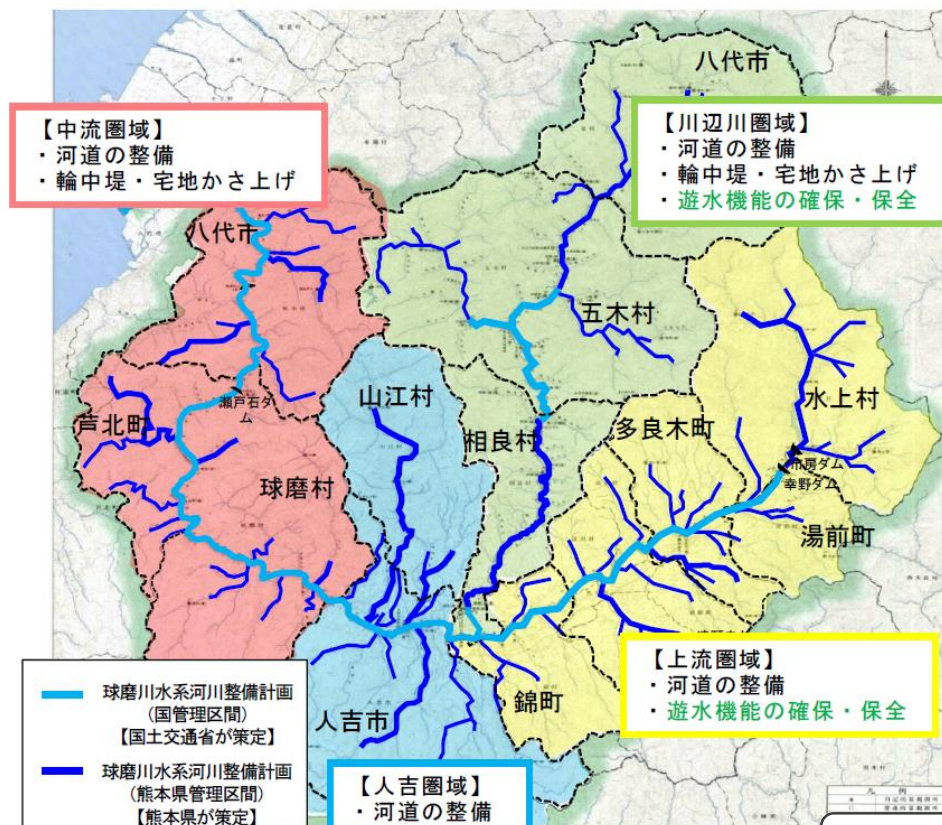
流下能力を向上させる対策
流量を低減させる対策

主な治水事業(県管理区間)

流下能力を向上させる対策
流量を低減させる対策



出典:球磨川水系河川整備計画 [国管理区間]

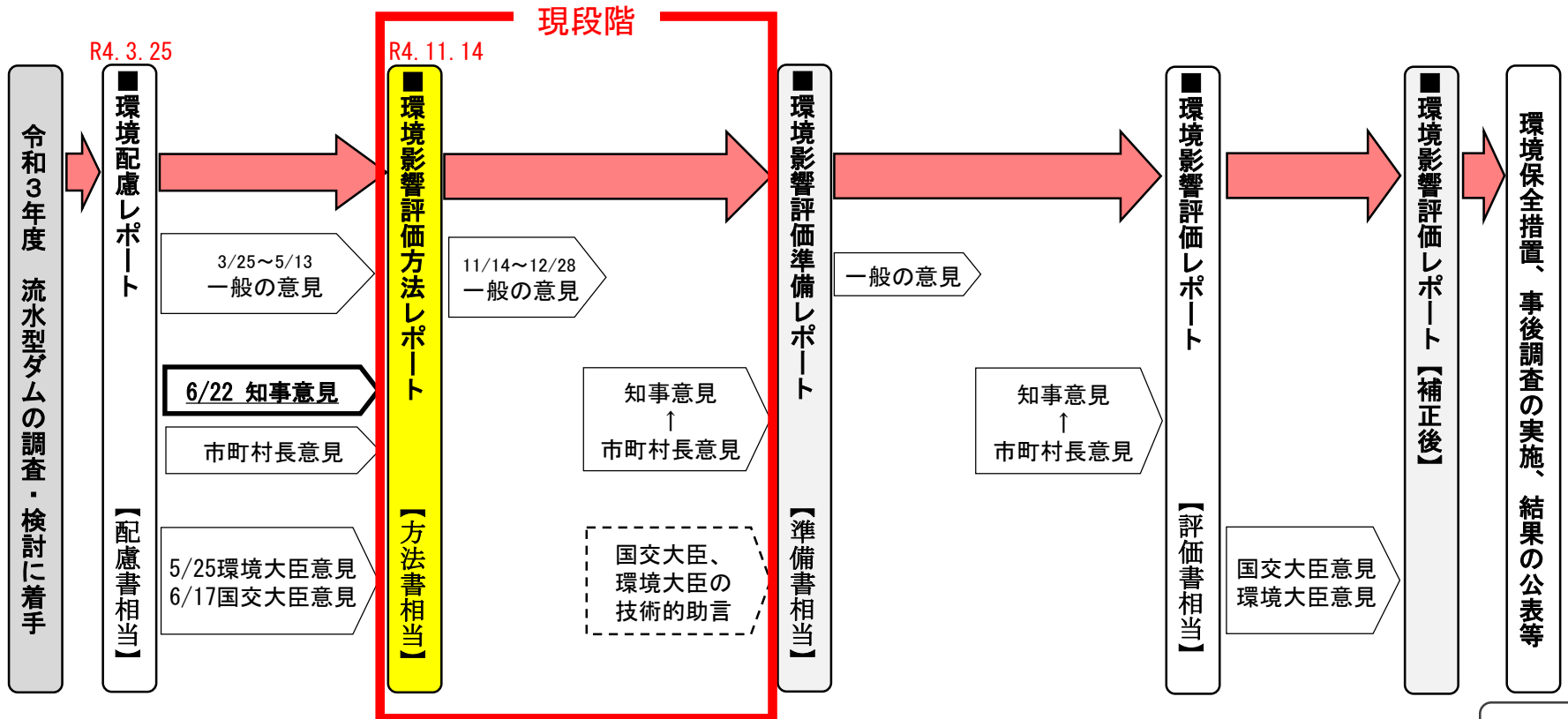


出典:球磨川水系河川整備計画 [県管理区間]

流水型ダムを進捗状況①（環境影響評価（環境アセスメント））

- これまで実施してきたダム関連の工事等による現地の状況も考慮しつつ、環境影響評価法に基づくものと同等の環境影響評価が実施されている。
- 令和4年11月14日付けで、九州地方整備局において、「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価方法レポート(※)」が公表され、一般の意見の聴取、説明会が実施された。
- 県では、令和5年1月16日に「流水型ダムに係る環境影響評価審査会」を開催。今後、審査会や関係市町村長意見、一般の方々の意見の概要等を踏まえ、知事意見を提出する予定。

※環境影響評価法の方法書に相当。どのような項目について、どのような方法で調査・予測・評価をしていくのかという環境影響評価の計画を示した図書。



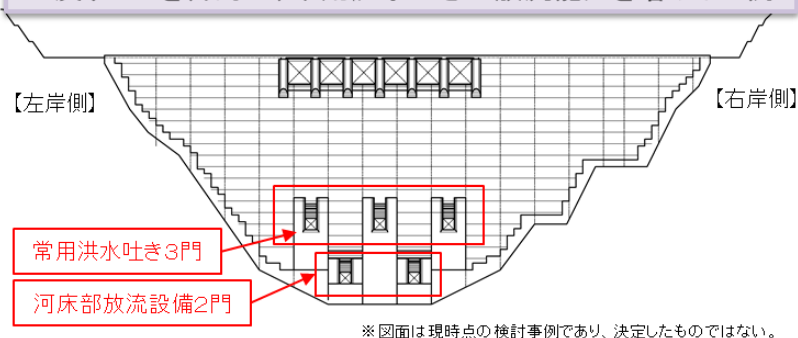
流水型ダムの進捗状況②（ダムの構造等の検討状況）

○環境影響の最小化に向け、流水型ダムの特徴を最大限活かせるよう、ダムの設計の初期段階から、「流砂環境の保持」「生物の移動経路の確保」「景観への影響の最少化」の着眼点を踏まえた検討を進め、さらに、環境影響評価の内容もできる限り織り込みながら検討が行われている。

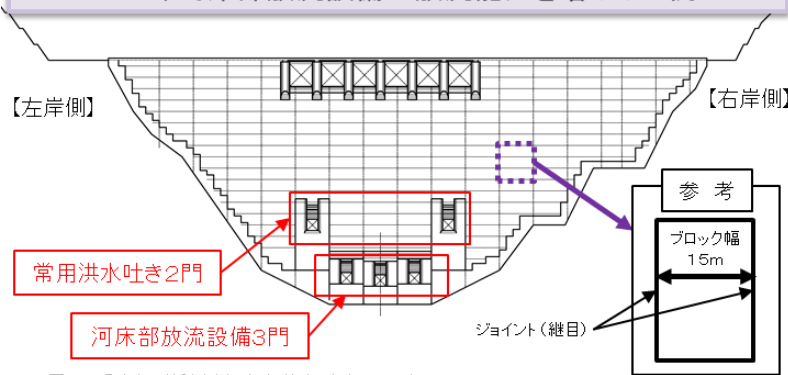
放流設備の配置の検討例（※例示であり、決定したものではありません）

放流設備の配置の検討例

【検討例】洪水調節後期に速やかに平常時の河川の状況に戻すことを目的に、常用洪水吐きの放流能力を増やした例

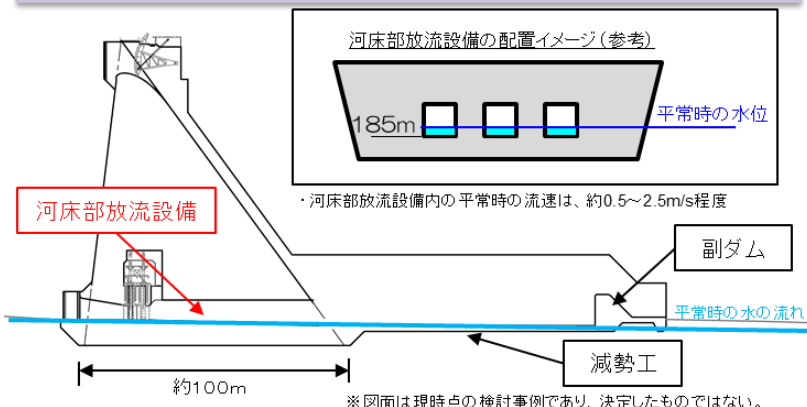


【検討例】自然河川の状態をできる限り維持することを目的に、河床部放流設備の放流能力を増やした例

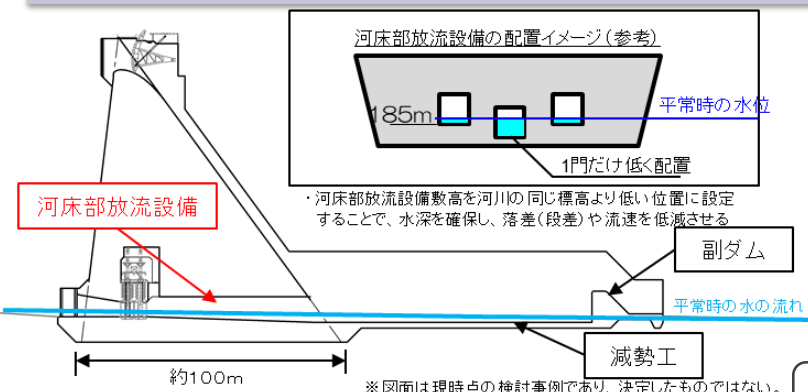


河床部放流設備の配置の検討例

【検討例】河川との段差を低減させることを目的に、河床部放流設備敷高を現況河床の高さに設定した例



【検討例】放流管内の水深をできる限り確保することを目的に、河床部放流設備の1門の敷高を下げた例



流水型ダムの進捗状況③(新たな流水型ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み)

- 「新たな流水型ダム」が、安全・安心を最大化するものであるとともに、球磨川・川辺川の環境に極限まで配慮し、清流を守るものとして整備が進められているのか、事業の方向性や進捗を確認する仕組みがスタート。
- 令和4年12月25日(日曜日)に第1回会議を開催し、流水型ダムの構造や環境影響評価について、現在の検討及び進捗状況等を確認。
- また、流水型ダムに関する情報の県民への周知を図るため、今後、第1回会議の内容について新聞広告を実施予定。

◆「新たな流水型ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み」の概要

1 目的

- ・球磨川水系河川整備計画に位置付けられた「新たな流水型ダム」について、設置趣旨に基づき、事業の方向性や進捗を確認する。
- ・確認を行うことにより、新たな流水型ダムに関する情報の県民への周知を図る。

2 構成員

県（副知事（座長））、国土交通省九州地方整備局、

球磨川流域市町村、球磨川流域住民、有識者（河川工学、環境）

計35名

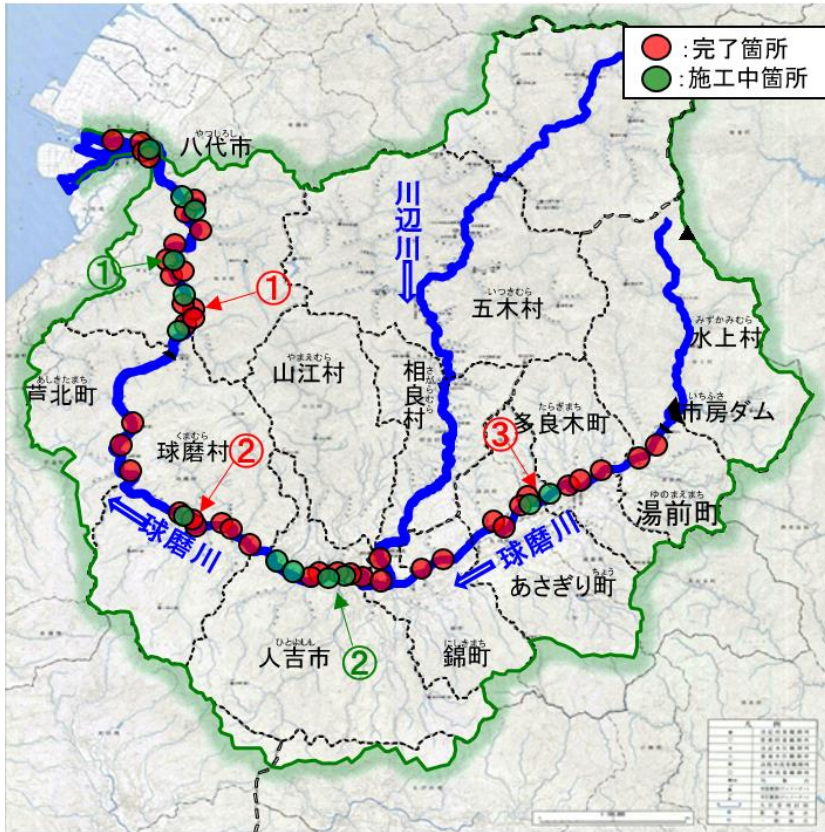


第1回会議の様子

堆積土砂の撤去など河川の緊急対策(国管理区間)

重点10項目

- 令和2年7月豪雨による堆積土砂約125万 m^3 の撤去が完了。
- 更に、令和5年2月末現在で約71万 m^3 の掘削が完了し、引き続き、河道掘削を推進していく。



【施工前状況】

【施工後状況】



【施工中状況】



<令和4年度末までの取組みと成果>

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・県管理河川について、令和5年2月末までに **約122万m³を撤去。**
- ・また、市房ダムにおいても、令和5年2月末までに **約47万m³の堆積土砂を撤去。**

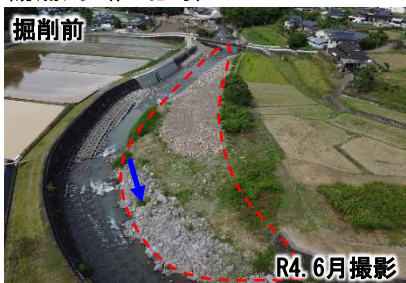
◆ 河川情報の充実

- ・水位計15基、河川カメラ15基を増設。(※)
 - ・夜間でも河川の状況が確認できるよう、河川カメラへの照明設備17基追加。(※)
- (※)R2. 7月発災以降の合計、権限代行含む

小田浦川 (芦北町)



湯浦川 (芦北町)



<令和5年度末の到達イメージと実現にむけた重点取組>

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・引き続き、流域住民の声をお聞きしながら、河川の流下能力の維持・向上やダムの洪水調節容量の確保を図る。

◆ 河川情報の充実

- ・**令和5年の出水期までに新たに河川カメラ11基を増設予定。**

川辺川 (五木村)



万江川 (人吉市)

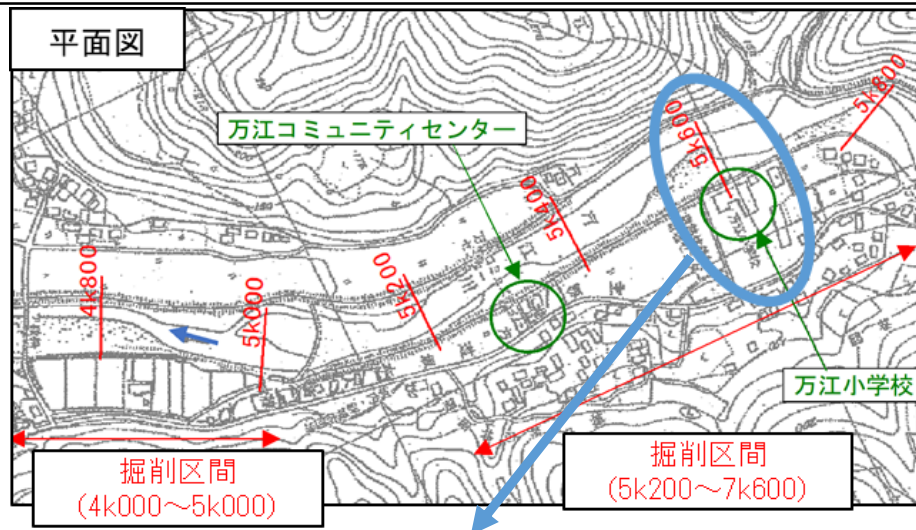


市房ダム (水上村)



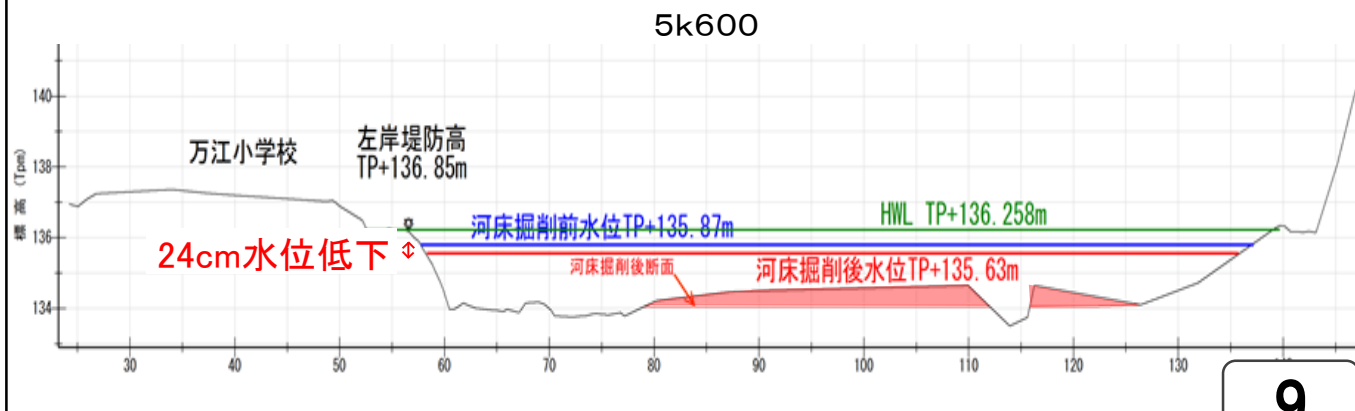
台風14号に対するR2.7豪雨以降に万江川で実施した堆積土砂の掘削効果(推定)

- 台風14号では、万江川流域において12時間で約190mmの降雨を観測。
- 台風14号に対し、令和2年7月豪雨以降に実施した堆積土砂の掘削により、掘削前と比べて、例えば万江小学校付近(5k600地点)において24cm水位が低下し、堆積土砂の掘削による効果があったものと推定。
- 引き続き、堆積土砂の掘削を適正に実施し、流下能力を維持するとともに、河川・砂防・治山との連携により、土砂の流出抑制を図る土砂洪水氾濫対策を実施。



掘削前後写真(5k600付近)

堆積土砂の掘削効果(推定)



被災した河川管理施設の復旧(県管理区間)

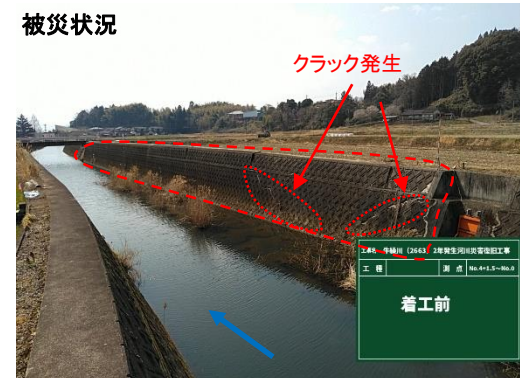
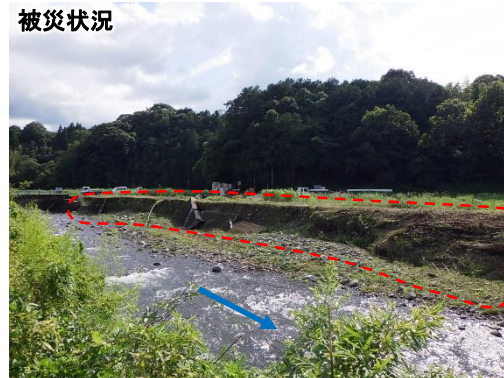
重点10項目

<令和4年度末までの取組みと成果>

- 被災した全394箇所、約177億円(県管理の河川)について、現在、災害復旧事業を実施。
- 工事の進捗は、令和5年2月末までに、311箇所を契約締結し(現在、残り83箇所も全て入札手続き中)、内192箇所は工事完了。
- また、国による権限代行区間の140箇所は、令和4年度末までに本復旧が完了予定。

<令和5年度末の到達イメージと実現に向けた重点取組>

- 進入路の被災等により、これまで着手出来なかった山間部の被災箇所の復旧工事を推進。



佐敷川(芦北町)



こさで
小縄川(人吉市)

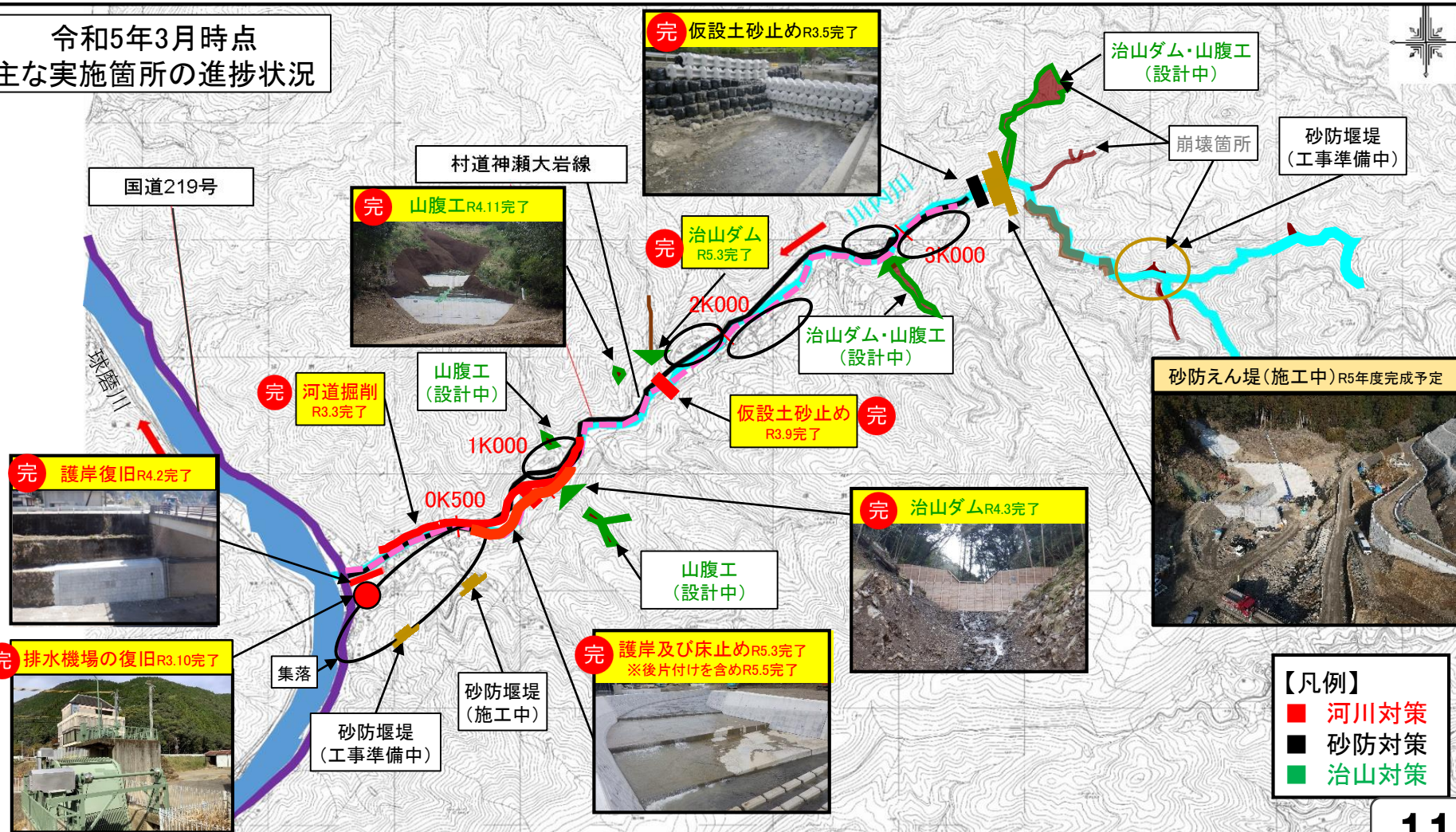


牛繰川(多良木町)

川内川における流域治水の推進

- 河川区域の対策として、河道掘削や河川護岸の災害復旧により、河道の流下能力を確保した。
- 集水域の対策として、氾濫原因のひとつである河道への土砂や流木流入の抑制対策を実施することで、再度の河道埋塞の防止を図る。
- 令和4年度末までに、**河道掘削、護岸復旧、治山ダム2箇所、山腹工1箇所等が完了。**
- 令和5年度末には、新たに**砂防えん堤1箇所が完成予定。**

令和5年3月時点
主な実施箇所の進捗状況

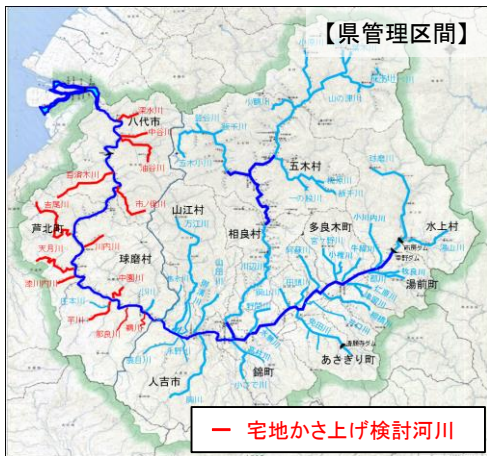
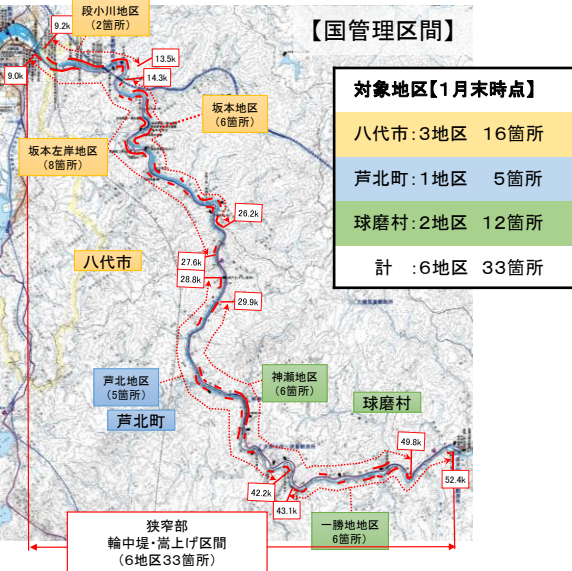


輪中堤・宅地かさ上げ【国・県管理区間】の進捗状況

第4回 学識経験者等の意見を聴く場(R5.3.3)資料より引用

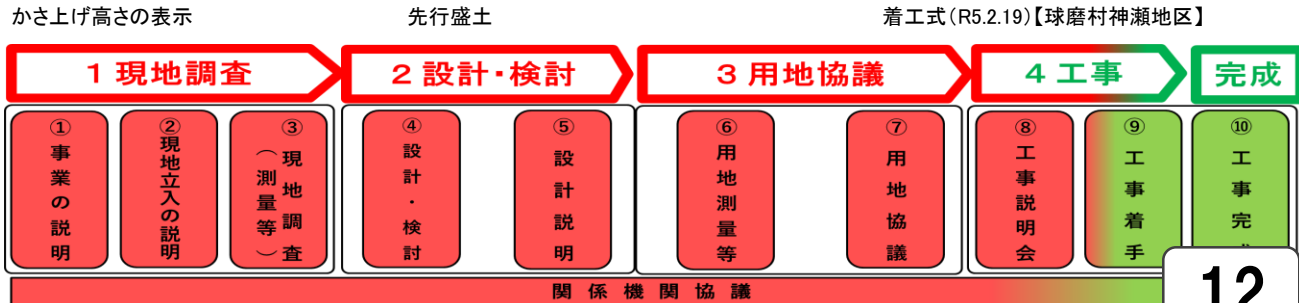
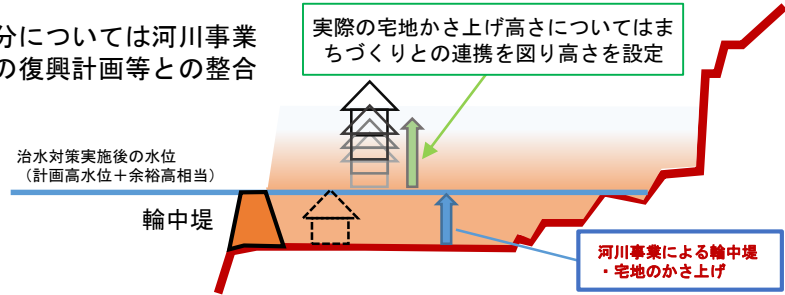
- まちづくり等との連携により自治体の復興計画等との整合を図ったうえで整備高さを決定。
- 対象となる各地区で順次事業説明会を開催すると共に、かさ上げ高さの表示や先行盛土の見学会の開催を通じて、具体的な整備イメージを地域の皆様と共有するなど取り組みを推進。
- 球磨村神瀬地区において、輪中堤・宅地かさ上げ事業における流域内初の着工式を令和5年2月19日に実施。

【位置図】



まちづくりと連携した輪中堤・宅地かさ上げイメージ

- ・集落全体をかさ上げし、その後家屋やインフラ等含む生活基盤をまちづくり等と連携して再構築を実施する。
- ・河川事業によるかさ上げ高さを上回る分については河川事業とまちづくり等との連携により自治体の復興計画等との整合を図ることとする。

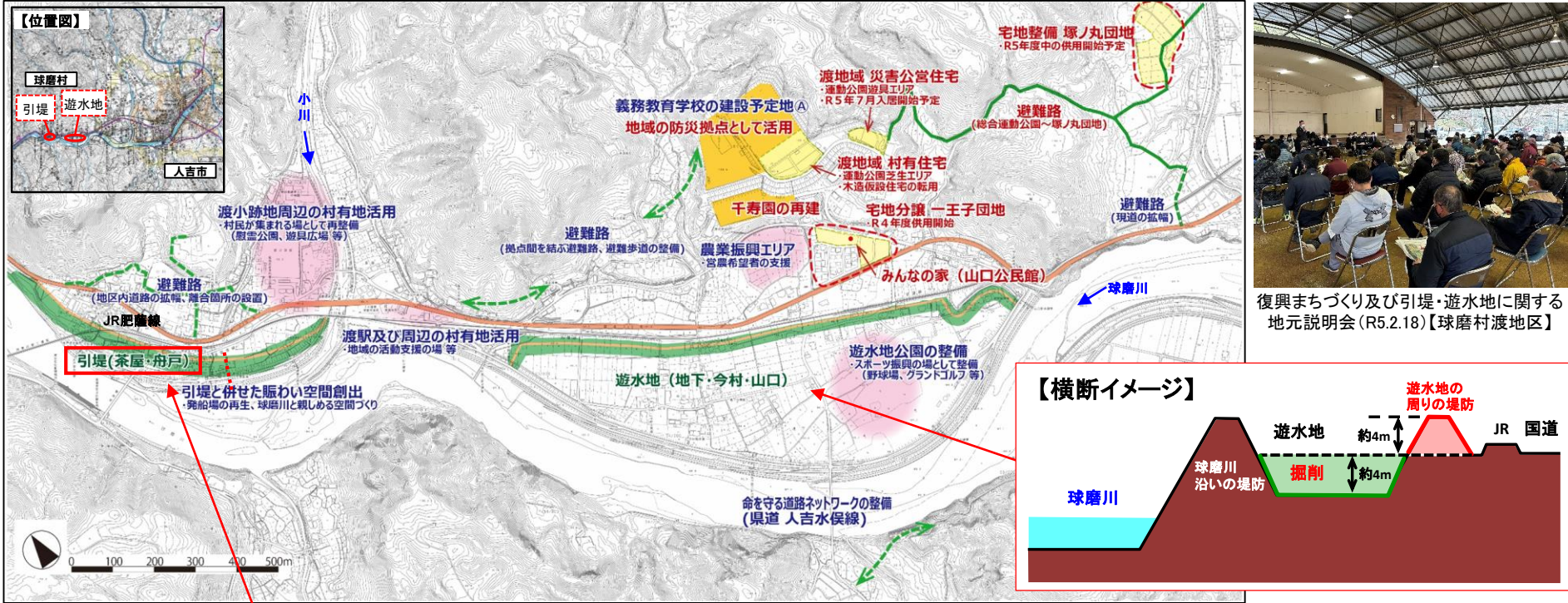


引堤・遊水地【国管理区間】の進捗状況

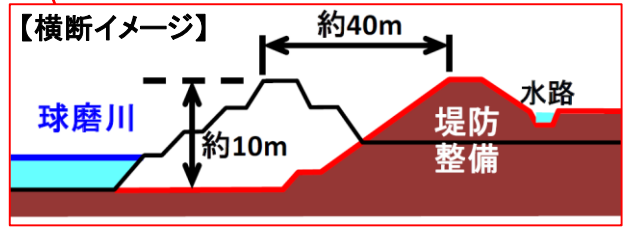
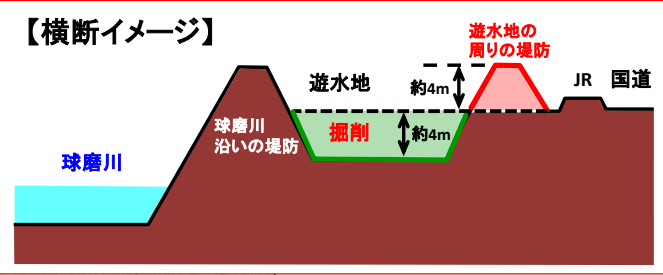
第4回 学識経験者等の意見を聴く場 (R5.3.3) 資料より引用

- 引堤・遊水地については、まちづくり懇談会等にも参加し、地元との合意形成に努めている。
- 引堤については、現地の地盤高やJR肥薩線、支川小川合流部を考慮し、引堤の範囲を決定。
- 遊水地については、現地の地盤高や地下水位等の状況を考慮し掘削深を決定。
- 球磨村では、対象家屋の移転先の確保に向けて、まちづくりにおいて災害公営住宅や新たな宅地、避難路等の整備を実施しており、河川事業とのスケジュールの調整をし、令和5年度から工事に着手する予定。なお、遊水地内の利活用についても球磨村にて検討。

球磨村渡地域 (まちづくりと河川事業) のイメージ【R5.2.18時点】



復興まちづくり及び引堤・遊水地に関する地元説明会 (R5.2.18)【球磨村渡地区】



1 現地調査			2 設計・検討		3 用地協議		4 工事		完成
① 事業の説明	② 現地立入の説明	③ (現地調査等) 測量等	④ 設計・検討	⑤ 設計説明	⑥ 用地測量等	⑦ 用地協議	⑧ 工事説明会	⑨ 工事着	⑩ 工事完

関係機関協議

治山・砂防による山の再生・強化(砂防)

重点10項目

<令和4年度末までの取組みと成果>

- ◆堆積土砂・流木の撤去(17箇所)
 - ・全17箇所撤去完了、**台風14号に伴う土石流を捕捉。**
- ◆砂防施設の復旧(237箇所)
 - ・令和5年2月末までに**166箇所契約締結し、内64箇所は工事完了。**
 - ※残り71箇所中、66箇所は入札手続き中、5箇所は町道等が被災し現地に入れられないため、令和5年度に工事着手
- ◆緊急的な砂防施設の整備(17箇所)
 - ・令和4年度末までに**15箇所完了。**
- ◆その他砂防施設の整備(23箇所)
 - (今後の土砂災害を防止するため計画的に砂防施設を整備)
 - ・令和4年度末までに**9箇所工事着手。**

<令和5年度末の到達イメージと実現に向けた重点取組>

- ◆砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去
 - ・維持管理上、必要な土砂撤去を継続。
(出水期までに5,000m³撤去完了予定)
- ◆砂防施設の復旧
 - ・**全237箇所完了**予定。
- ◆緊急的な砂防施設の整備
 - ・**全17箇所完了**予定。
- ◆その他砂防施設の整備
 - ・令和5年度に**新たに13箇所工事着手、着手した22箇所のうち13箇所完了**予定。
※村道が被災し現地に入れられない1箇所は、令和6年度に工事着手

○砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去(西平川砂防堰堤(あさぎり町))



令和2年7月豪雨時に捕捉した土砂・流木の撤去が完了していた砂防堰堤で、台風14号に伴う土石流を再度捕捉し下流域への被害を未然に防止!



○緊急的な砂防施設の整備(大坪川-1砂防堰堤(津奈木町))



溪流内の不安定土砂を約8,500m³捕捉可能!
人家、町道、公共施設等の
保全に貢献!!



万江川流域の土砂・洪水氾濫対策(砂防)

重点10項目

- 令和2年7月豪雨では、万江川流域内で土砂・洪水氾濫(※)が発生した。
- 今後の出水で再び土砂・洪水氾濫が発生する可能性が高く、流域住民の生活や経済に与える影響を抑制するため、土砂・洪水氾濫対策に取り組んでいる。

<令和4年度末までの取組みと成果>

- ・「万江川土砂・洪水氾濫対策検討委員会」の設置。
- ・委員会を2度実施し、**砂防・河川・治山の3事業が連携した対策等の検討**を進めた。

<令和5年度末の到達イメージと実現に向けた重点取組>

- ・委員会の検討内容を踏まえ、砂防えん堤の位置など**具体的な土砂・洪水氾濫対策計画**を策定する。
- ・対策施設の**詳細設計に着手**予定。

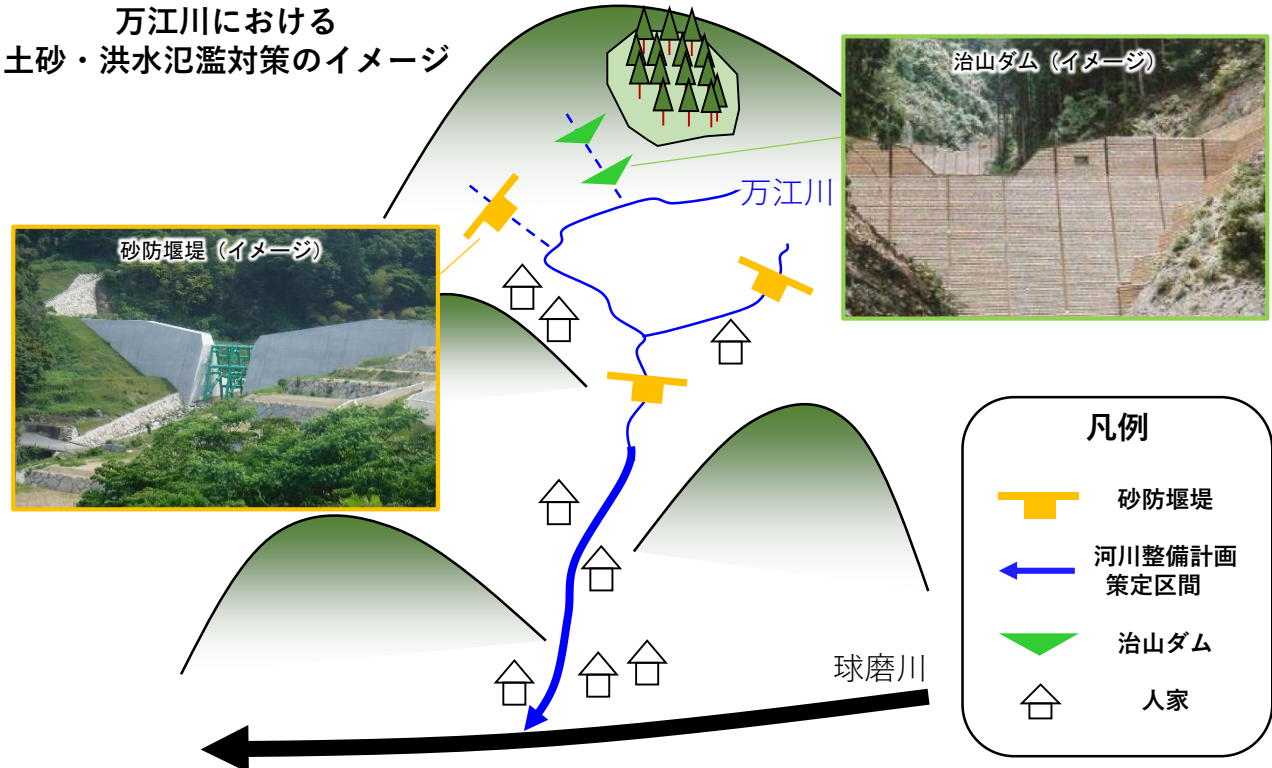
令和2年7月豪雨時の
万江川土砂・洪水氾濫状況



検討委員会 現地調査
(令和4年10月)



万江川における
土砂・洪水氾濫対策のイメージ



※土砂・洪水氾濫とは、豪雨により上流域から流出した土砂が下流の河道に堆積することで、洪水時に河床上昇・河道閉塞が引き起こされ、土砂と泥水の氾濫が発生する現象。

治山・砂防による山の再生・強化(治山)

＜令和4年度末までの取組みと成果＞

- ・土砂・流木の撤去 **17箇所すべて完了。**
- ・治山施設の復旧全17箇所中、**2箇所**で完了、**6箇所**で実施中。
- ・緊急的な治山施設の整備全67箇所中、**46箇所**で完了、**21箇所**で完了予定。
- ・その他の治山施設の整備全99箇所中、**8箇所**で完了、**8箇所**で実施中。
- ・昨年から出水期前の早期に危険性の高い箇所の山地防災パトロールを実施。本年も**207箇所**を点検し、差し迫った危険性は確認されなかった。併せて、住民に防災情報の周知を行った。

土砂流木を撤去した治山ダム



山地防災パトロールと事前防災の周知



＜令和5年度末の到達イメージとその実現に向けた重点取組＞

- ・治山施設の復旧 **9箇所**、その他の治山施設の整備 **41箇所**で着手予定。
 - ・令和4年度から、球磨南部3地域及び五木1地域の計4地域で、国と県が川上から川下まで地域全体で土砂流出抑止対策(※)に取り組む。
 - 国有林(国)2地域(①あさぎり、②湯前)
 - 民有林(県)2地域(③錦・あさぎり・多良木・湯前、④宮園・三浦)
- ※流域保全総合治山事業
 全体計画期間：令和4年度～令和8年度
 事業内容：流木捕捉式治山ダム工、治山ダム工、山腹工、森林整備(筋工、柵工)



＜令和4年度末までの取組みと成果＞

- ・球磨川流域7市町村の水田約457haで取組みを実施。(R3:296ha⇒R4:457ha)
- ・有識者による検証委員会を設置し、水田の貯留効果や水田からの流出量のピークカット効果、農作物への影響等について評価を実施。
- ・人吉・球磨地域をはじめ、県内全域での田んぼダムの普及・拡大を推進するため、各地域の取組みをけん引する田んぼダムマイスターの育成に着手。

＜令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組＞

- ・田んぼダムの取組みをリードする人材の育成等により、人吉・球磨地域のみならず、各地域での草の根的な展開を図る。
- ・広報活動等により、下流域の住民をはじめ、県民の理解促進に取り組んでいく。



県内全域での普及・拡大の推進を図る。

(球磨川流域での目標面積:540ha)

田んぼダム効果等検証委員会

- ・最終の第7回人吉・球磨地域田んぼダム効果等検証委員会を開催(令和5年2月13日)。
- ・委員会から、県に対し今後の田んぼダムの進め方などを盛り込んだ提言書を提示。

田んぼダム実施状況



委員会から県へ提言書の提示



田んぼダムマイスターの育成

- ・県内の土地改良区、多面的機能支払組織、行政関係者等を対象として、研修会等を実施し、田んぼダムマイスターの育成を図った(725人)。

知事による参加者への激励



マイスター研修会



雨庭(雨水貯留・浸透施設)の整備

- 令和3年11月、熊本県立大学・肥後銀行・県が連携した流域治水の研究プロジェクト「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域創造拠点の取組みがスタートし、雨庭(※)のモデル整備による効果検証、普及拡大に向けた取組みを推進している。
- 令和4年10月、熊本県立南稜高校において、高校、県立大学等が協働し、雨庭のモデル整備を実施。また、本年3月、県が球磨地域振興局に雨庭を整備。今後、県立大学を中心に、降雨時の雨庭への流入量・流出量の計測、効果検証等を実施する予定。
- 来年度、新たに予算化のうえ、流域の県有・市町村施設等での、雨庭の整備促進を図る予定。

※雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間

【南稜高校】



【球磨地域振興局】



工事前



工事後

球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組

復興まちづくり等と一体となった河道整備の着実な推進

<令和4年度>

- ・人吉市の中心部を流れる山田川については、土地区画整理事業と連携した堤防強化のほか、まちづくり協議会で平時の利活用を検討し、小段形状などの整備内容を具
体化。
- ・川辺川(五木村)や田頭川(あさぎり町)において、事業化に向けた 地元説明会を開催。



山田川 まちづくり協議会



川辺川及び梶原川(五木村)
河川改修説明会

<令和5年度>

- ・御溝川について、令和5年度末までに二次放水路の整備を完了予定。
- ・山田川等において、用地取得に着手するとともに、その他県管理支川の早期事業化に向け、関係者調整や地元説明会を実施。



御溝川二次放水路整備状況

グリーンインフラとしても活用できる遊水機能を有する土地の確保・保全

<令和4年度>

- ・洪水を一時的に貯留してゆっくり流す“遊水機能を有する土地の確保・保全”の取組について、川辺川(相良村)で現地測量等に着手。



川辺川(相良村)
遊水機能を有する土地説明会

<令和5年度>

- ・川辺川(相良村)において、用地取得に着手予定。
- ・新たに、井口川(あさぎり町)の旧河道を活用した遊水機能を有する土地の確保に向けた測量等に着手予定。

球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組

水害リスク情報の充実

<令和4年度>

- ・洪水浸水想定区域図(L2)を県ホームページ「防災情報くまもと」に掲載。
- ・検索したい地点の浸水状況をポップアップ表示するなど、**水害リスク情報をより分かりやすく提供。**



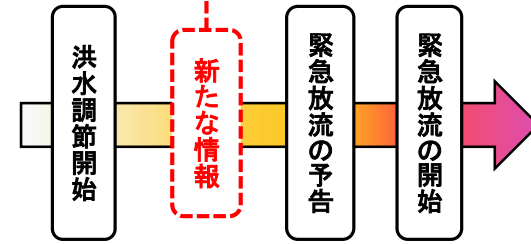
防災情報くまもと 操作画面

市房ダムの新たな情報の発信

<令和4年度>

- ・住民の円滑な避難を支援することを目的に、異常洪水時防災操作(緊急放流)の予告よりも早い段階で、**新たに「貯留能力の半分情報」を発信**する運用を開始。
- ・**台風第14号の際は、緊急放流開始の約7時間20分前に情報を発信。**

貯留能力の半分情報



市房ダムから発信する情報

住民の円滑な避難の支援

<令和4年度>

- ・11月21、24日に**人吉市役所の全職員を対象に、市房ダムの操作やダムから発信する情報等に関する説明会を開催。**
- ・引き続き、ダムに関する理解を深めるため、他の市町村職員や住民への説明を行っていく予定。



説明会の状況

球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組

水防災意識の醸成

<令和4年度>

- ・令和5年1月21日(土)にNPO法人と国・県・八代市が連携してイベントを行い、防災に関するパネルや浸水想定区域図などを用いて、地元の小学生や自主防災組織の方へ、直接、水防災の重要性や必要性を周知。



水防災フェスタ 熊本県ブース説明状況

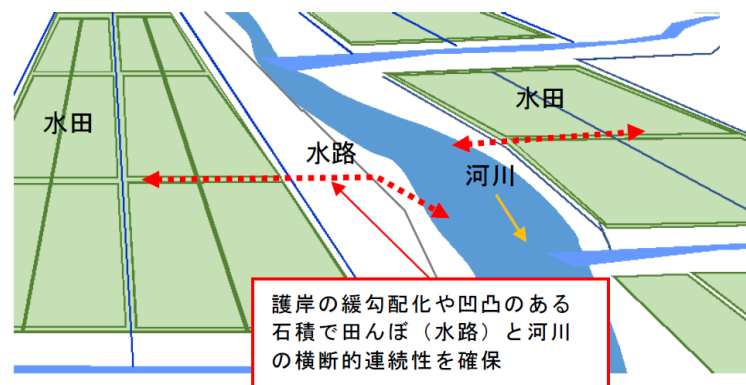
河川と水路の連続性の確保による緑の流域治水の実践

<令和4年度>

- ・河川とそこに流れ込む水路の横断的な連続性を確保し、生物の生活環境の回復を図る「いきものバリアフリーチャレンジ」を始動。

<令和5年度>

- ・試行河川として選定した免田川において、環境調査や、高低差を解消するための対策を地元小学生等と共同で実施予定。



河川の横断方向の連続性の概要図
出典:球磨川水系河川整備計画 [県管理区間]

<令和4年度末までの取組みと成果>

マイタイムラインの普及

- ・専用WEBサイトを開設(R3.9)。
- ・作成チラシの全世帯配布や専用WEBサイトでの公開、市町村出前講座、学校での防災授業等で活用する**作成支援動画を制作(R4.10)**。
- ・学校等と連携し、子どもから家庭への浸透を図るために、マイタイムラインを活用した防災教育を支援。



マイタイムライン専用WEBサイト



マイタイムライン作成支援動画

リアルハザードマップの設置



リアルハザードマップ(あさぎり町)



リアルハザードマップ(球磨村)



避難訓練(球磨村)

- ・流域の全市町村において想定浸水深や避難場所等の標識を設置。(全76箇所)
- ・整備を促進するため、優良事例やノウハウ等をまとめ、ホームページ等で周知。

地域防災リーダー養成講座「緑の流域治水 火の国ぼうさい塾」の開催

- ・ 防災活動等の中心的役割を担う「地域防災リーダー」を養成する「火の国ぼうさい塾」を、令和5年2月に人吉市において開催。
(※人吉球磨地域では初開催。約70名が受講)
- ・ 「気象や災害、緑の流域治水」に関する講義、「地域防災に関する自助・共助の役割【避難所運営ゲーム】」、救急救命講習などを実施。



火の国ぼうさい塾(人吉市)

地区防災計画の作成推進

- ・ 市町村と連携し、地区防災計画の作成を推進。
- ・ 多良木町、湯前町では全てのエリアで、地区防災計画の作成済。
- ・ 流域の全市町村で、地区防災計画の作成に着手。



地区防災計画研修(湯前町)

広報等の取組み



県からのたより [令和4年6月号]



テレビスポットCM [令和4年6月放送]

- ・ テレビ、ラジオ、県からのたより、SNS等を用いて防災情報を発信

避難場所の確保等に係る民間との連携

- 令和2年7月豪雨の経験を踏まえ、施設利用に係る連携体制を構築することで、地域住民の安全・安心確保に向けた取組みが進んでいる。

※人吉市では、今年度、災害時の施設使用等の協力に関する協定を、(有)丸恵本館、岩下兄弟(株)、(株)ダイナムと締結。

L字TV放送の実施



人吉市と岩下兄弟(株)との協定締結

危機感共有と命を守る災害報道連携会議

- 引き続き、防災関係機関や報道機関が連携して、「危機感共有と命を守る災害報道連携会議」を開催。
- 梅雨期間や台風接近時など大雨が予想された場合に臨時のワーキンググループを開催(今年度は16回開催)。
- アドバイザー等から雨に関する情報や、防災対応への助言があり、早期の避難情報の発令や住民の周知につながった。
- また、在熊テレビ5局によるテレビを活用した早期避難を呼びかける取組みが、国の水防功労者表彰を受賞



水防功労者表彰式

すまい・コミュニティ
の創造

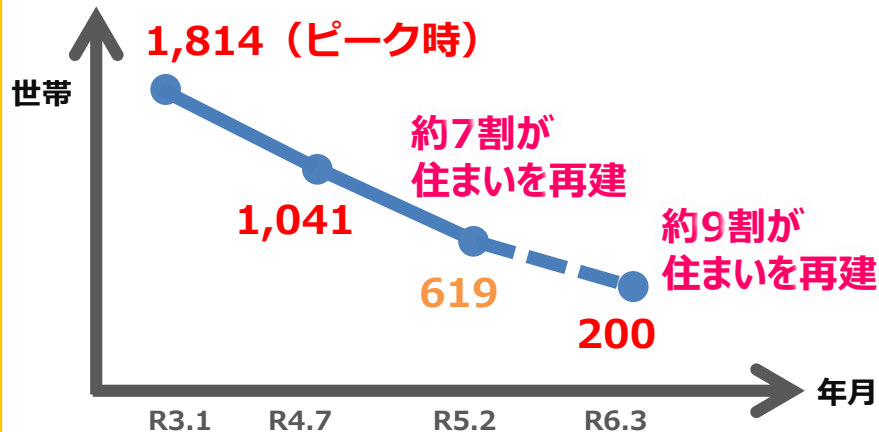
<令和4年度末までの取組みと成果>

- ・ 仮設住宅の入居者は、令和5年2月末時点で619世帯（1,341人）。**約7割が住まいの再建を実現。**
- ・ 再建の目処が立っていない世帯に対しては、福祉関係機関と共に個別ケース会議等を実施。課題解決のため伴走型による重点支援。
- ・ 昨年12月、**国から災害救助法に基づく応急仮設住宅の供与期間に関する同意があり、発災から3年経過から最長1年間延長。**

<令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組>

- ・ 災害公営住宅や木造仮設住宅を住まいの再建先として活用することにより、多くの被災者が住まいの再建を実現。
- ・ **令和6年3月には、仮設住宅入居世帯の約9割が再建を果たし、残る約200世帯に対しての支援を継続。**
- ・ 一方で、再建された世帯に対する支援として、新たな環境で暮らすこととなる災害公営住宅等において住民主体のコミュニティ形成に対する支援が重要となる。

仮設住宅入居世帯



(地域支え合いセンターによる交流支援)

本格的な住まいの再建(災害公営住宅等)

重点10項目

<令和4年度末までの取組みと成果>

◆災害公営住宅等の整備 (全12地区285戸)

- ・2地区 6戸 完成
- ・7地区215戸 工事中
- ・2地区 52戸 事業者募集中
- ・1地区 12戸 設計条件整理中

完成

市町村	地区	戸数	入居時期
相良村	西原	2戸	令和4年12月
八代市	合志野	4戸	令和5年4月

工事中

市町村	地区	戸数	入居時期
八代市	中津道 藤本・大門	1戸 5戸	令和5年7月 令和5年9月
人吉市	相良町	120戸	令和6年1月
芦北町	佐敷 湯浦	9戸 12戸	令和5年7月 令和5年7月
球磨村	一勝地 渡	8戸 60戸	令和5年7月 令和5年9月

事業者募集中

市町村	地区	戸数	入居時期
人吉市	東校区	45戸	令和6年夏頃
球磨村	神瀬	7戸	令和5年度中

設計条件整理中

市町村	地区	戸数	入居時期
八代市	坂本町松崎	12戸	令和7年度中

<令和5年度末と到達イメージと実現にむけた重点取組>

- ・八代市(坂本町)、人吉市(東校区)を除く5市町村、10地区、228戸の災害公営住宅等について、R5年度末までの早期完成・入居開始を目指す。
- ・市町村支援(設計・工事内容の協議・提案、補助金申請指導等)を引き続き実施。



災害廃棄物の処理

◆ 令和5年2月末にすべての市町村で公費解体と災害廃棄物の処理が完了。

- ① 公費解体数: **2,450**件 (3,593棟)
- ② 災害廃棄物処理量: 約33万トン 再生利用率: **80.2%**

[目標の70%以上を達成]

○ 損壊家屋等の解体・撤去

(球磨村茶屋地区)



≪公費解体の進捗状況の推移≫

	申請件数	完了件数	完了率
R3.6月末	2,442	1,201	49.2%
R4.6月末	2,434	2,425	99.6%
R5.2月末	2,450	2,450	100%

(人吉市下青井町)



≪災害廃棄物の処理状況(R5.2月末)≫

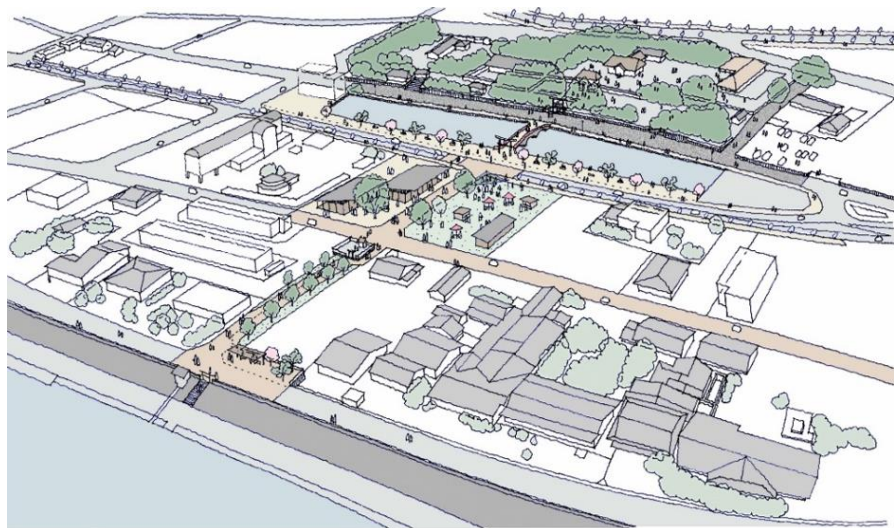
	処理量	発災時の推計量
災害廃棄物処理量	32.8万トン	34.1万トン
再生利用量	26.3万トン	—
再生利用率	80.2%	目標: 70%以上

(※) 災害廃棄物に土砂を含めた総処理量は37.7万トン (発災時の推計量 47.2万トン)

人吉市の新たなまちづくり・集落再生の取組み

重点10項目

- 県が施行する青井被災市街地復興土地区画整理事業(約5.2ha)について、令和5年2月7日に国の事業認可を取得し、2月21日に事業着手。
- 市が施行する紺屋町被災市街地復興土地区画整理事業(約1.2ha)について、令和5年3月7日に知事が事業認可し、市は3月22日に事業着手。
- 今後、両地区とも土地区画整理審議会を設置及び換地設計等を進める。
- 人吉市では、土地区画整理事業と並行し、復興まちづくり協議会において示された賑わい創出等について具体的に取り組み、創造的復興を目指す。
- 地区内の全世帯が全壊となる被害を受け、また、遊水地の整備が計画されている大柿地区については、令和4年11月、市として安全な場所への移転により早期に住まいの再建を果たしてもらうことを基本とする方針を示した。現在、移転先となる新たな宅地の整備等の支援策に取り組んでいる。



青井地区におけるまちづくりの将来像
「青井阿蘇神社を中心とした歴史文化・賑わいの形成」イメージ図



中心市街地復興まちづくり協議会

球磨村の集落再生に向けた取組み(渡地区)

重点10項目

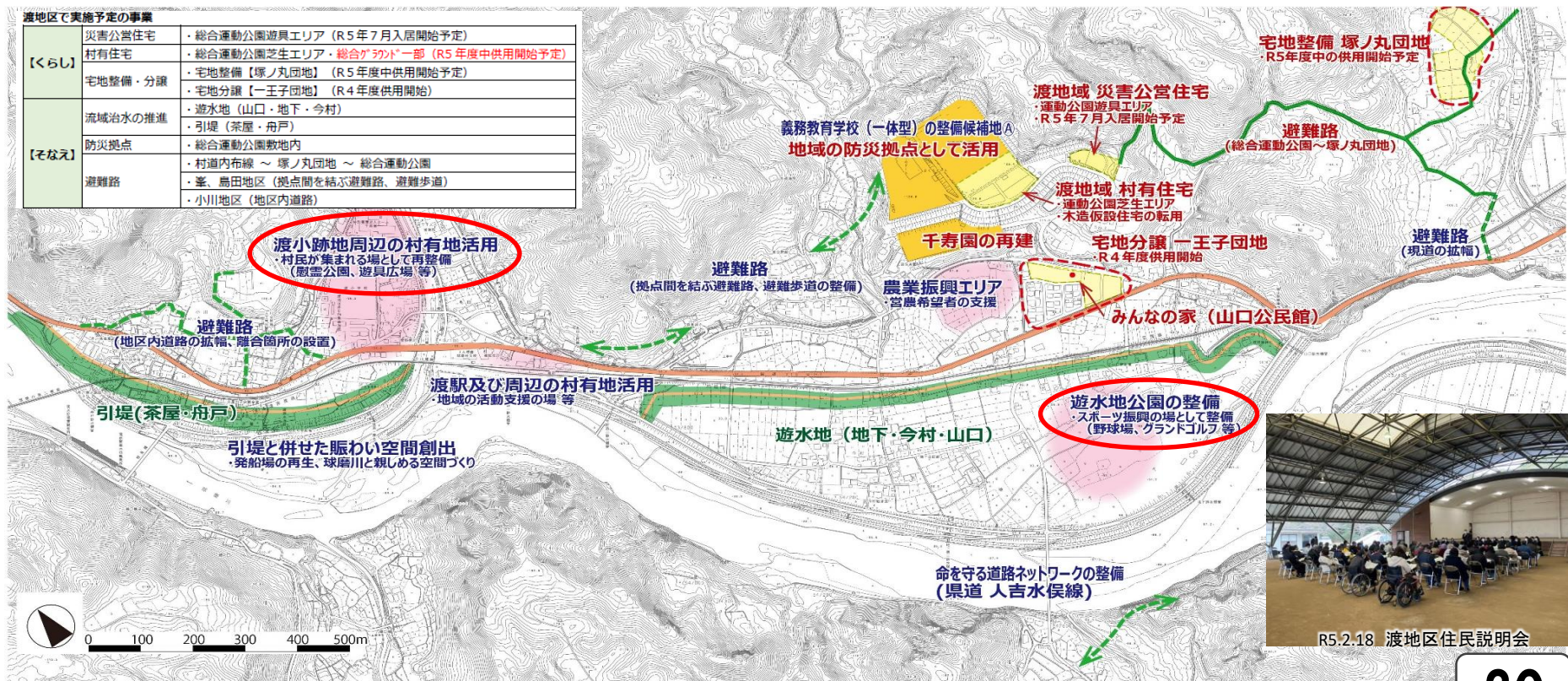
- 被災者の早期の住まい再建等に向けては、山口居住エリアの宅地造成及び避難路整備について、令和5年度中の一部供用開始を目指し、県が受託施行中。
- 災害公営住宅(60戸)については、村が令和5年8月の完成を目指して建設中。
- 渡小学校、千寿園の跡地については、球磨村が令和2年7月豪雨の犠牲者を追悼する慰霊公園等の整備を検討中。
- 遊水地・引堤については、国が令和5年度中の一部着工を目指し、用地調査・用地協議を実施中。併せて、村では遊水地の平時における利活用について、スポーツ振興の場として公園整備を検討中。



建設中の災害公営住宅(渡地区)

渡地区で実施予定の事業

【暮らし】	事業内容
災害公営住宅	・総合運動公園遊具エリア (R5年7月入居開始予定)
村有住宅	・総合運動公園芝生エリア・総合グラウンド一部 (R5年度中供用開始予定)
宅地整備・分譲	・宅地整備【塚ノ丸団地】 (R5年度中供用開始予定) ・宅地分譲【一王子団地】 (R4年度供用開始)
【そなえ】	事業内容
流域治水の推進	・遊水地(山口・地下・今村) ・引堤(茶屋・舟戸)
防災拠点	・総合運動公園敷地内
避難路	・村道内布線 ~ 塚ノ丸団地 ~ 総合運動公園 ・峯、島田地区(拠点間を結ぶ避難路、避難歩道) ・小川地区(地区内道路)



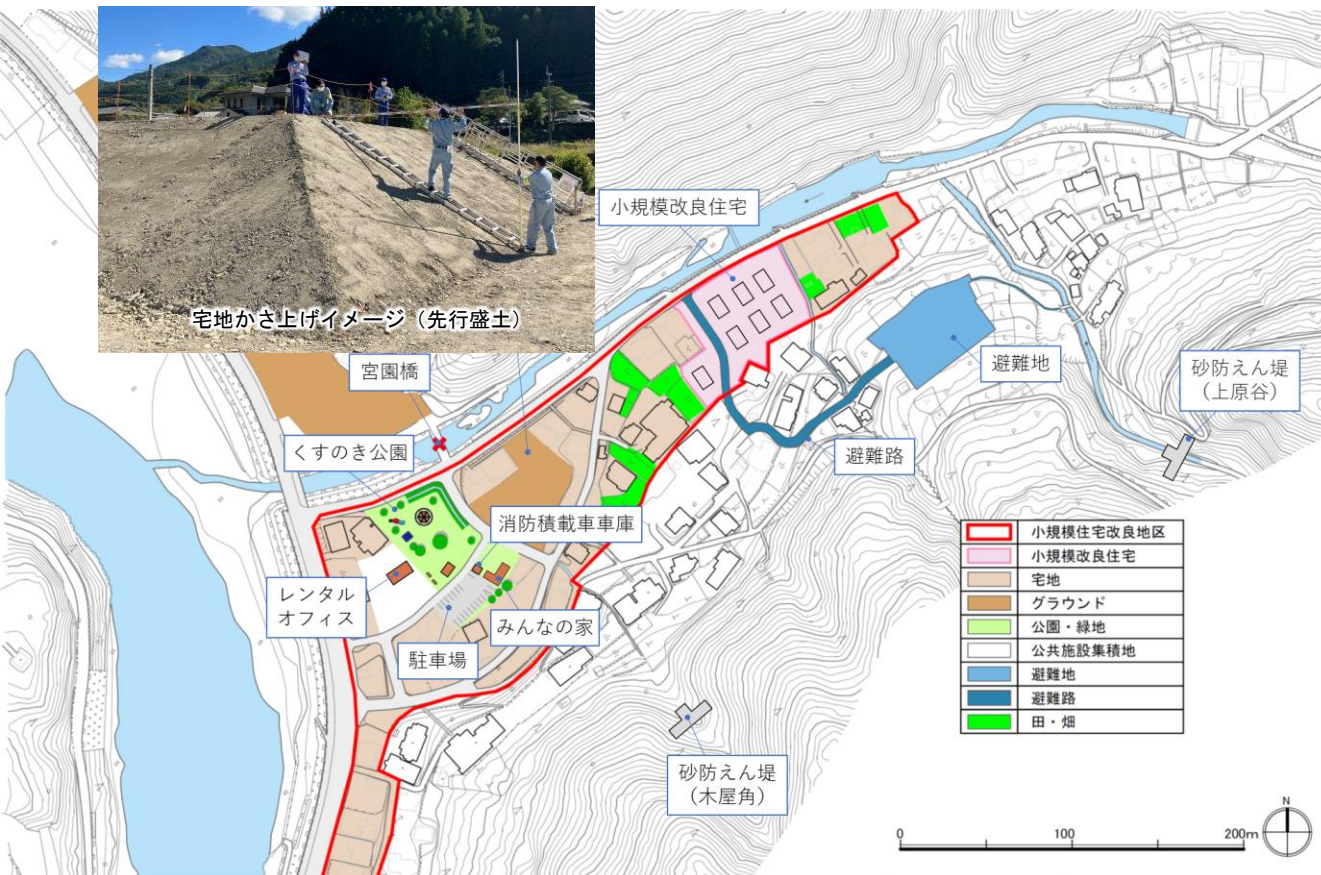
R5.2.18 渡地区住民説明会

渡地区の復興まちづくりイメージ

球磨村の集落再生に向けた取組み(神瀬地区)

重点10項目

- 中心部については、球磨川中流域における**輪中堤・宅地嵩上げ事業**の最初の実施地区として、**令和5年2月19日に着工。(令和6年3月完了予定)**
- 宅地嵩上げと併せて、**小規模改良住宅、みんなの家、避難地・避難路等を整備予定。**
- 宅地嵩上げ完了後の創造的復興に向けた地域のまちづくりについては、神瀬地区まちづくり協議会において、地域住民と議論しながら総合的に推進。

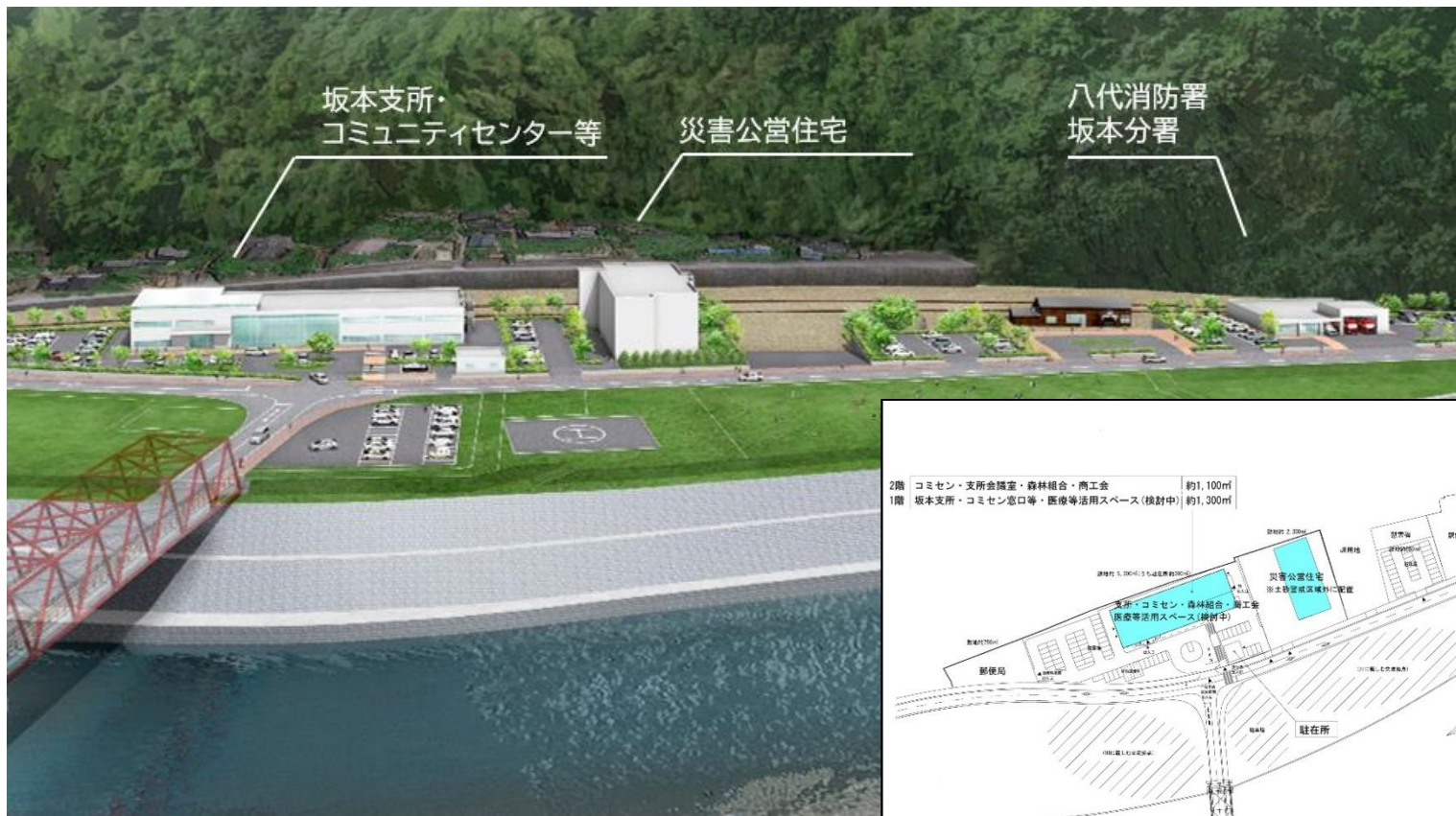


みんなの家イメージ



神瀬まちづくり協議会

- 八代市では、令和5年2月24日に坂本支所等整備基本計画を取りまとめ、坂本支所及び周辺の整備方針を決定。
- 現在、支所等の設計中であり、令和7年末完成予定。
- 併せて、宅地かさ上げや河川防災ステーション、県道中津道八代線の整備等と連携したまちづくりを推進。



球磨川流域市町村の復興まちづくりの取り組み

重点10項目

- 山江村では、住民参加による「復興むらづくりミーティング」を令和3年度から計8回開催し、住民意見を踏まえた事業として、**指定避難所がない万江地区で避難所を整備中。**
- 芦北町では、車中泊避難などの多様な避難手段の確保のため、国が整備した土地を活用し、**避難地を新たに整備。**

山江村



万江地区に避難所を

<復興村づくりミーティング>



自然休養村管理センター

既存施設の改修により
避難所としての機能を
確保(R5.5完成予定)

R4.7時点

芦北町

R4.9.1指定避難場所に指定



花岡高台避難場所 ※芦北IC横



R5.2時点

特別養護老人ホーム「千寿園」の再建

- 特別養護老人ホーム「千寿園」については、令和3年4月から仮設の施設で運営再開しており、これまで県は仮設リース料等を支援
- **令和6年4月の球磨村での本設再開に向けて、国庫補助等を活用しながら財政支援を行う**

<令和4年度末までの取組みと成果>

- ・ 令和3年1月14日：人吉市に仮設着工
- ・ 令和3年4月12日：仮設運営開始（広域型特養40人、ショートステイ8人）
- ・ 令和4年10月25日～12月11日：移設予定の球磨村総合運動公園内の多目的広場にあった仮設団地（ムービングハウス）を撤去
- ・ 令和5年1月4日：球磨村多目的広場に本設着工

<令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組>

- ・ 令和6年1月頃：竣工
- ・ **令和6年4月頃：球磨村でのサービス再開予定**

※再開後のサービス（数字は定員数）

広域型特養	40
ショートステイ	10
地域密着型特養	20
通所介護	30
居宅介護支援事業所	

敷地面積：8,962㎡
建築面積：3,637㎡
延床面積：3,561㎡

階数：地上2階
構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造



八代市デジタル医療MaaS推進事業(モバイルクリニック)の取組

- 令和2年7月豪雨災害により2つの医療機関が被災し、無医地区同様となった八代市坂本町において、医療MaaS車両を用いた**オンライン診療の実証事業が令和4年12月末にスタート**。
- 当面は、慢性疾患の患者を対象に地区公民館等への巡回による**車両内での遠隔診療や遠隔服薬指導**を実施しながら、課題を検証予定。

診療車披露セレモニー



八代市デジタル医療MaaS推進事業

- ・遠隔医療機器を装備した移動診療車に看護師が乗車し、テレビ会議システムにより診療所にいる医師が患者を診察。
- ・配車予約システムにより、医師がオンライン診療のスケジュールに応じ、効率的なルートで地域を巡回。



遠隔診療のデモンストレーション



<連携>

- 八代市
- 熊本県
- 八代保健所
- 八代郡医師会
- 八代市内医療機関
- 八代薬剤師会
- 交通事業者

インターネット

テレビ会議システム
予約情報共有システム



なりわい(生業)・
産業の再生と創出

<令和4年度末までの取組みと成果>

事業再建支援

(1) なりわい再建支援補助金による復旧支援

補助金の
交付決定
510件



復旧完了
455件
(89.2%)

※交付決定後の取消9件を除く

※令和4年度末時点の見込み



人吉旅館の復旧



復旧が進む全開連※及びゼンカイミート(株)
※全国開拓農業協同組合連合会

(2) 県南の醸造食品関連企業に対する支援

- ・製品の味や香りに影響する蔵付き微生物を被災蔵元から収集・分離・保管し、優良菌株を選抜
 - ➔ 新商品開発に向けた支援を実施
(味噌・醤油の試験醸造、焼酎の香り成分の分析等)
- ・被災後からの衛生環境復旧支援により一部製品が製造再開
 - ➔ 県や全国の味噌・醤油の鑑評会等で上位入賞



被災蔵元における微生物の収集



釜田醸造所(人吉市)
R4年度熊本県味噌鑑評会「県知事賞」

商店街の事業再開

(3) 被災した商店街の復旧支援

- ・仮設商店街5箇所の開設や被災商店街の復旧を支援
- ・まちなかのにぎわい回復に向けたイベント開催を支援



モゾカタタウンひとよし駅前



さかもと復興商店街



人吉復興応援大感謝祭



<令和4年度末までの取組みと成果>

新たな産業の創出等

投資額計133億円
新規雇用303人

(令和2年7月豪雨以降令和5年1月末までの実績)

(4) 事業所の立地やオフィスの設置による産業創出

- ・サテライトオフィスの設置等による産業の創出 **15件**
- ・企業立地促進補助金「球磨川流域復興枠」の立地協定及び適用事業所の認定 **9件**

効果



(株) エービーケーエスエスとの協定 (人吉市)



メルシャン (株) との協定 (八代市)



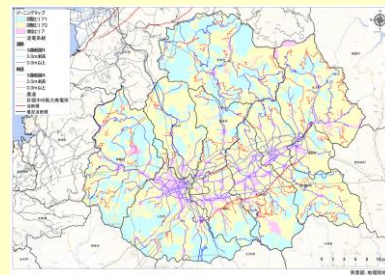
I T 関連企業の進出が進む芦北サテライトオフィス計石 (芦北町)

(5) 地域共生型再エネ施設の導入推進

「地域共生型再エネ施設」の導入に向けて、陸上風力発電及び地上設置型太陽光発電について、自然環境・景観・防災面に配慮した**ゾーニングマップを作成**



陸上風力ゾーニングに係る地域懇談会



陸上風力発電施設のゾーニングマップ案 (球磨地域)

(6) 雇用の維持・確保及び離職者等の就労支援

- ・ワンストップ就労相談窓口を設置 (R4.7月)
- ・同窓口において、求職者・企業双方に対して就職・採用活動を支援



ワンストップ就労相談窓口除幕式 (人吉市)



就労支援員による高校生の就職支援のための出前講座の様子

<令和5年度末の到達イメージとその実現に向けた重点取り組み>

<到達イメージ>

再建を目指す全ての事業者の事業再開

<実現に向けた重点取り組み>

(1) なりわい再建支援補助金による復旧支援

公共事業(土地区画整理事業等)の影響により復旧計画が立てられず、未だ補助金を申請できない事業者がおられる。そのため、必要となる予算を確保するなど、**再建を目指す全ての被災事業者の事業再開まで支援を継続**

(2) 被災した商店街の復旧支援

仮設商店街においては、公共事業の影響等により現地での事業再開が遅れている入居者もおられるため、**維持経費への支援を継続**するとともに、まちなかにぎわい回復に向けたイベント開催を支援

(3) 醸造食品関連企業の商品開発等の支援

- ・ 被災した球磨焼酎及び味噌・醤油蔵元等の蔵付き**微生物ライブラリー構築**のための微生物の収集・解析・保管
- ・ 分離収集した微生物の特性把握による優良菌株の更なる選抜
- ・ 優良菌株を活用した創造的復興のための**新商品開発支援**



優良菌株の解析

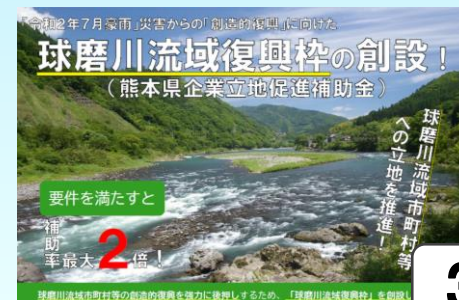


製造再開した酒造場

流域全体をけん引する新たな産業の創出

(4) 流域への企業・オフィス誘致等による新たな産業の創出

- ・ サテライトオフィスの設置等による産業の創出及び企業立地促進補助金「**球磨川流域復興枠**」による**企業誘致を継続**
- ・ 令和4年度に設置された**球磨地域産業振興連絡会議**を軸として、全庁的な支援体制及び市町村との連携を強化し、**新たな産業創出や雇用確保対策**に取り組む。



<令和4年度末までの取組みと成果>

- ・営農用機械・施設3,726件の復旧が完了。
- ・林水産施設7件の復旧が完了。
- ・農林業者による応急復旧・自力復旧711件が完了。
- ・県及び市町村が実施する農地・農業用施設及び林道の復旧工事685箇所完了、295箇所実施中、311箇所(うち県実施11箇所)が未着手。

災害復旧工事に係る市町村への支援状況

- ・令和2年7月以降、6市町村に対し、農業土木技術職員及び林務技術職員 延べ203名を応援派遣。
- ・なお、令和3年度・4年度は、広域本部等に配置した技術職員を中心に、以下の支援を実施。

(農地・農業用施設)

芦北町、あさぎり町、球磨村の5地区で県営災害復旧事業を実施中。

(林道)

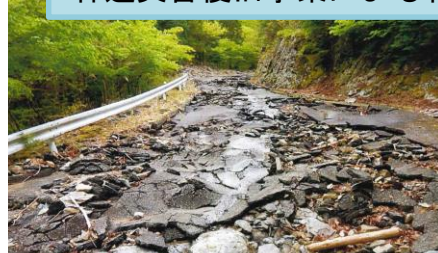
県南地域13市町村で実施する災害復旧事業を支援。

※各職員が業務の一部として支援。

<令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組>

- ・農地・農業用施設や林道の本格的な復旧工事については、国や市町村と連携し、引き続き全力で取り組む。
- ・これらの工事は、主に市町村が発注の主体となることから、農業土木や林務の技術職員による技術的支援を継続。

林道災害復旧事業による林道の復旧(五木村下梶原地区)



R4. 7月撮影

県営災害復旧事業による農地復旧(芦北町宮浦地区)



R4. 5月撮影

“緑の雇用”の創出に向けた森林資源のフル活用の取組み

＜令和4年度までの取組みと成果＞

1 林業担い手の確保・育成

○くまもと林業大学校での就業者の確保

・R1～3年度までに**最先端技術を習得した卒業生53名が林業関係に就業。**(うち県南地域の就業者 17名)

■現地実習



■苗木運搬ドローン



■卒業生の53名就業先



2 森林再生の支援強化

○再造林等に取り組む事業者への支援

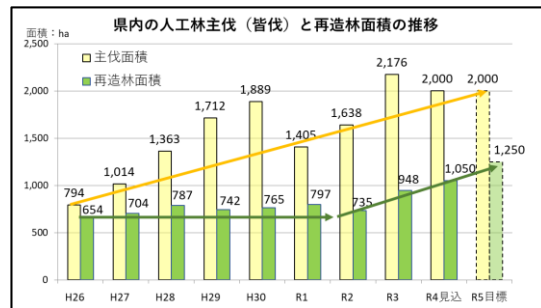
・国産材の需要の高まりを受け皆伐が加速化傾向にある中、再造林や下刈りの事業量を拡大した事業者を支援。

【再造林面積】

・R2年度まで
750ha/年程度

↓ 1.4倍増

・R4年度
1,050ha/年見込み



＜令和5年度の重点取組＞

○くまもと林業大学校の充実

・R6年度以降の定数拡大に向けた受け入れ体制の整備や資格取得数の拡充。

【長期課程定数：20名→24名】

【資格取得数：長期課程15、短期課程2→6】

○就業環境改善

・事業者が労働者の賃金を3%以上引き上げる場合に法定外福利厚生費用を支援。

【上限100千円/人】

○新たな林業事業者の創設による再造林対策の強化

・林業未経験者の雇用による新たな林業事業者の創設を支援【未経験者採用見込数：60名】

■Iターン者等の育林作業での雇用



イメージ

■専門員による所有者への働きかけ



イメージ

3 森林サービス産業の展開

○新たな「森林サービス産業」の創設

・地方創生推進交付金を活用し、2地域を支援。

【協議会の設立】

「くまむら森林サービス産業創出協議会」(R3)

「人吉・球磨森林サービス産業創出協議会」(R4)

プラン策定、
ハード展開
の準備に着手

○「森林サービス産業」の事業化への支援

・球磨村の「森のサウナ」等の事業展開や企業連携を支援。

・人吉・球磨地域協議会におけるプラン策定や五木村振興計画に基づき、森林空間を教育や観光の場としての活用策の検討を支援。

球磨川流域CO2削減住宅補助金の概要

○球磨川流域地域における一定基準以上の断熱住宅リフォーム等への補助



高断熱住宅※の普及による
ゼロカーボンの推進

両立

球磨川流域地域の
復旧・復興

※冷暖房エネルギー消費量の約35%削減

補助金の概要

- 1 補助対象
球磨川流域地域(13市町村)における、高断熱窓・ガラス等を用いた住宅のリフォーム、被災住宅の再建
- 2 補助率・額
対象建材費の1/3 上限30万円

(参考)令和4年度申請件数 (令和5年2月末現在)

市町村	件数	市町村	件数
八代市	8	水上村	0
人吉市	20	相良村	0
芦北町	5	五木村	0
津奈木町	0	山江村	2
錦町	0	球磨村	0
多良木町	0	あさぎり町	0
湯前町	0	合計	35

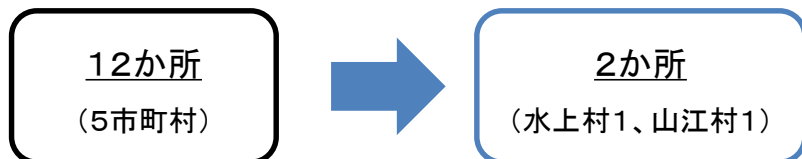
地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入推進

球磨川流域における新規小水力発電所の開発可能性調査等

<令和4年度末までの取組みと成果>

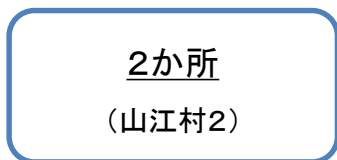
- ① 令和4年度は、令和3年度に候補地点として抽出した5市町村12か所について、現地調査や詳細検討等を実施し、2か所に絞り込み

【R3抽出候補地点】



- ② ①の取組みに加え、新たに砂防堰堤を対象とした開発可能性調査を開始。関係部局や有識者の意見を踏まえて選定した5か所の候補地点について現地調査等を実施し、2か所に絞り込み

【砂防堰堤候補地点】



【砂防堰堤の活用例】

菊鹿発電所取水設備

- ③ 市町村等が取り組む小水力発電施設整備等への技術支援について関係者へ周知

<令和5年度以降の取組み>

- ① 令和5～6年度に、有望な地点の流量調査・概略設計を行い、更なる絞り込みにより令和6年度の計画地点選定を見込む
- ② 砂防堰堤2か所については、有識者等の意見も踏まえて、更なる検討を行う
- ③ 市町村や地域団体が取り組む小水力発電施設整備等への技術支援を実施(継続)

【今後の検討課題】

発電した電気の活用方法（地域へ還元する方法等）

【令和5年度以降のスケジュール】

年度	取組内容
R5～R6	流量調査・概略設計 ⇒計画地点選定
R7～	計画地点の基本設計、測量等



電気事業等からの収益の一部を地域に還元

復旧・復興プラン関連事業等への支援(一般会計への繰出金の充当)

令和4年度 事業名(充当額)	令和5年度(予定) 事業名(充当予定額)
● 高等学校等通学支援事業 (209百万円)	● 高等学校等通学支援事業 (201百万円)
● 単県ダム堆砂排除事業 (100百万円)	● 単県ダム堆砂排除事業 (200百万円)
● 球磨川流域ゼロカーボン先進地創出事業 (20百万円)	● 球磨川流域ゼロカーボン先進地創出事業 (20百万円)
	● 地域共生型再エネ導入推進事業 (8百万円)
-----	-----
合計 329百万円	合計 429百万円

高等学校等通学支援事業



単県ダム堆砂排除事業



ゼロカーボン先進地創出事業



企業局未利用財産を八代市坂本町の復興事業に活用

企業局未利用財産(3か所)を復興事業用地として市に無償譲渡

- 荒瀬ダム関連施設跡地(7か所)の活用を八代市と協議
- 復興事業での活用として3か所の受入れ申し出があり、市へ譲渡予定
- 令和5年度1か所、令和7年度(国の嵩上げ事業後)2か所の譲渡契約締結・引渡予定

八代市坂本町復興計画(抜粋)

(基本目標)

“産業・経済”
の再生

(主要な施策)

地域の産業を支える
“担い手”の確保

“社会基盤・防災”
の再生

災害に強い
地域づくりの推進



企業局未利用財産	
① 藤本発電所跡地	6,811㎡
② 藤本発電所合宿舎跡地	848㎡
③ 西鎌瀬浸水土地買収地	172㎡

市へ譲渡後の活用案
・移住・定住者の 住宅用地 ・ 公園用地 等
・移住・定住者や地域おこし協力隊等の 住宅用地
・集落から主要道路までの 避難路

災害に強い
社会インフラ整備と
安心して学べる拠点づくり

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

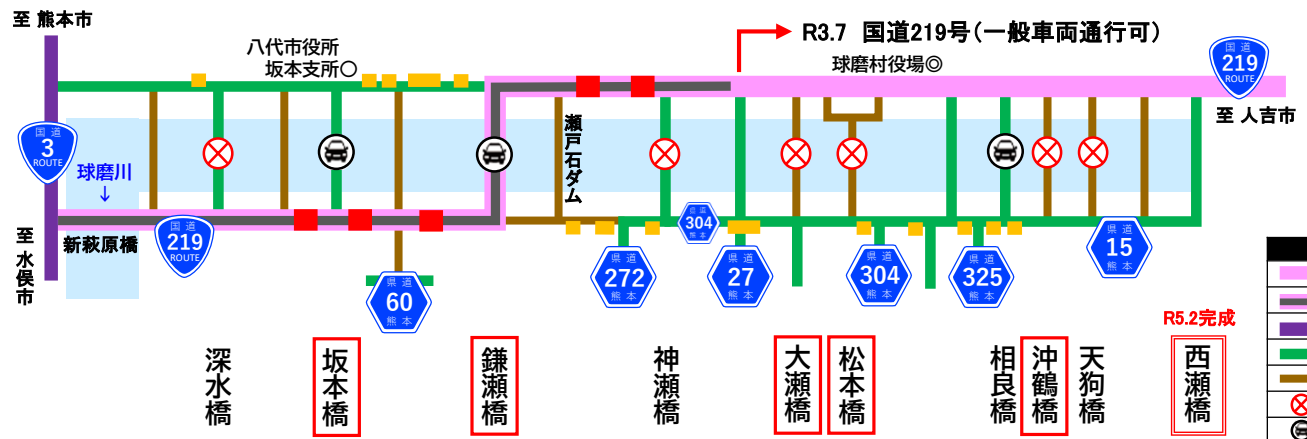
<令和4年度末までの取組みと成果>

- ◆**集落アクセス**
 - ・令和3年7月までに166集落へのアクセス道路応急復旧完了。
 - ・アクセス道路の本復旧工事は、952箇所のうち令和5年2月末までに**797箇所契約締結し、内588箇所は工事完了。**
- ◆**国道219号および対岸道路(国の直轄代行)**
 - ・応急工事等により、令和3年7月末、国道219号は大野大橋から人吉方面の一般車両通行可能。
 - ・**国道219号は、引き続き本復旧工事を推進。**
 - ・**対岸道路は、迂回路整備を推進。**
- ◆**橋梁(国の直轄代行)**
 - ・流失橋10橋のうち、**全ての橋梁形式決定。**
 - 完 成: 1橋(西瀬橋 R5.2.19完成)
 - 工事推進: 5橋(坂本橋、鎌瀬橋、大瀬橋、**松本橋、沖鶴橋 R4.12.4着手**)

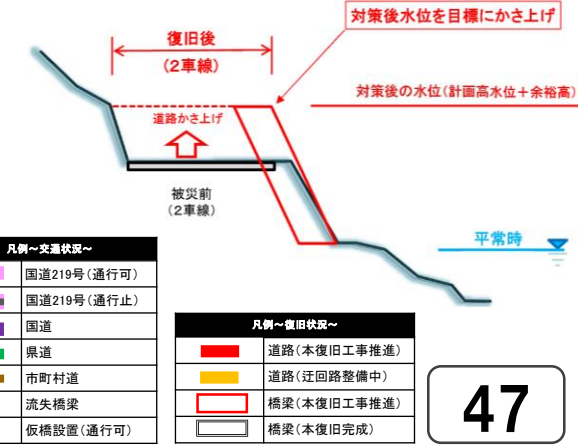
<令和5年度末と到達イメージと実現にむけた重点取組>

- ◆**集落アクセス**
 - ・被災した全箇所の**早期復旧**を目指して、**R5年度中に全箇所契約締結し、他工事の完了後に着手可能となる山間部の市町村道を除き、R5年度末までの完了**を目指す。
- ◆**国道219号および対岸道路(国の直轄代行)**
 - ・道路復旧方針に基づき避難計画やまちづくり計画等を踏まえ、国・県・市町村が連携して**道路護岸の復旧や嵩上げなど本復旧工事を推進。**
- ◆**橋梁(国の直轄代行)**
 - ・流失橋10橋のうち、完成した西瀬橋を除く**9橋の本復旧工事の推進。**
 - 工事推進: 5橋(坂本橋、鎌瀬橋、大瀬橋、松本橋、沖鶴橋)
 - 着手予定: 4橋(深水橋、神瀬橋、相良橋、天狗橋)

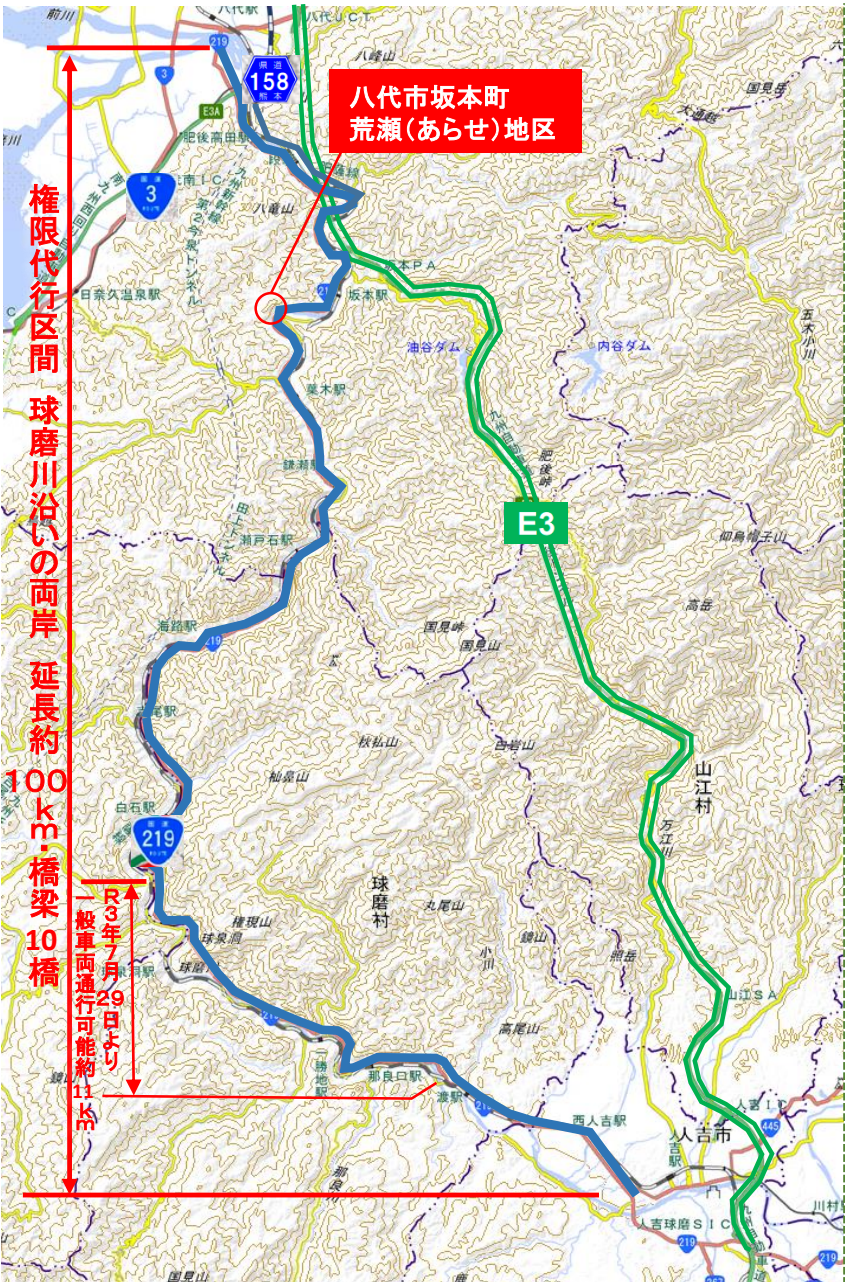
■ 国道219号等 復旧状況



■ 国道219号等 復旧イメージ



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興



●国道219号(八代市坂本町・荒瀬地区)道路復旧・かさ上げ状況



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興



● 国道219号(八代市・坂本町川嶽地区)道路復旧・かさ上げ状況



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興



●国道219号(球磨村・伊高瀬地区) 道路復旧・かさ上げ状況

被災状況



復旧状況(道路の復旧・かさ上げ) R5.2末



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興



● 県道一勝地神瀬線(球磨村・一勝地地区) 迂回路設置状況

令和4年7月被災により全面通行止め



人吉市
↑

↓
八代市

迂回路完成 R4.12.28 供用開始



人吉市
↑

↓
八代市

JR 肥薩線軌道敷を活用

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

●主要地方道人吉水俣線 西瀬橋の復旧状況

被災状況



開通式典 (R5.2.19)



仮橋施工状況 (R2.8)



(R2.8.21 仮橋架設・夜間工事中)

(R2.9.4 交通解放)



(R2.9.4 仮橋による通学路確保)

供用



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

● 県道坂本人吉線 坂本橋の復旧状況



＜令和4年度末までの取組みと成果＞

- ◆ 令和3年11月28日
「肥後西村駅～湯前駅」間で部分運行開始



再開後、通学生で溢れる「肥後西村駅」

- ◆ 既存橋桁・橋梁の撤去完了

- ◆ **令和5年1月26日**
球磨川第4橋梁建設工事に着手



球磨川第4橋梁建設工事起工式

＜令和5年度末の到達イメージとその実現に向けた重点取組＞

- ・ **令和7年度中の全線運転再開に向けた復旧工事の実施**
球磨川第4橋梁 【左岸側】橋脚、橋桁設置
【右岸側】橋脚設置



「球磨川第4橋梁」建設工事状況



新しい「球磨川第4橋梁」(イメージ図)

- ・ くま川鉄道(株)・地元市町村と連携し、**「くま川鉄道再生協議会」**において、**復旧後の持続可能性に関する協議を進める。**
- ・ 国、県、市町村による財政支援の実施

<令和4年度末までの取組みと成果>

- ◆「肥薩線復旧を願うアピール集会」
(令和4年3月 人吉市)



- ◆鉄道復旧に向けた関係者間での協議実施

- ・「JR肥薩線検討会議」

(令和4年3月設置、3回開催)

構成: 熊本県・国土交通省・九州地方整備局・九州運輸局・JR九州

- ・「JR肥薩線再生協議会」

(令和4年4月設置、3回開催)

構成: 熊本県・地元12市町村

- ◆財政支援拡充に係る国への要望



総務省への要望(令和4年6月)

<令和5年度末の到達イメージとその実現に向けた重点取組>

- ・「JR肥薩線検討会議」及び「JR肥薩線再生協議会」において、引き続き、鉄道復旧に向けた協議を進める。



第3回 JR肥薩線検討会議



第3回 JR肥薩線再生協議会

- ・国、JR九州、地元市町村と連携のうえ、**持続可能な運行に向けた調査・検討事業を進め、JR肥薩線の利活用策と地域活性化の取組み方針をまとめる。**

- ◆代替交通の確保

①くま川鉄道、②JR肥薩線の運休により通学困難となった生徒への通学支援(①R2.7～、②R2.9～)R5年度も支援を継続。

児童生徒の心のケア

○これまでの取組

年度	取組内容
令和2年度	・被災直後、緊急派遣SCによる心のケアの実施 ・SCの新規採用（4人）による相談体制の充実
令和3年度	3教育事務所に豪雨対応のSCを追加配置し、重点支援対象校への心のケアを実施
令和4年度	令和3年度に引き続き、SCを追加配置

※SC：スクールカウンセラー

○熊本豪雨重点支援対象校

【八代教育事務所管内】

八代市：八竜小学校 坂本中学校

【芦北教育事務所管内】

芦北町：佐敷小学校 佐敷中学校

【球磨教育事務所管内】

人吉市：人吉東小学校 人吉西小学校 東間小学校

西瀬小学校 中原小学校 第一中学校

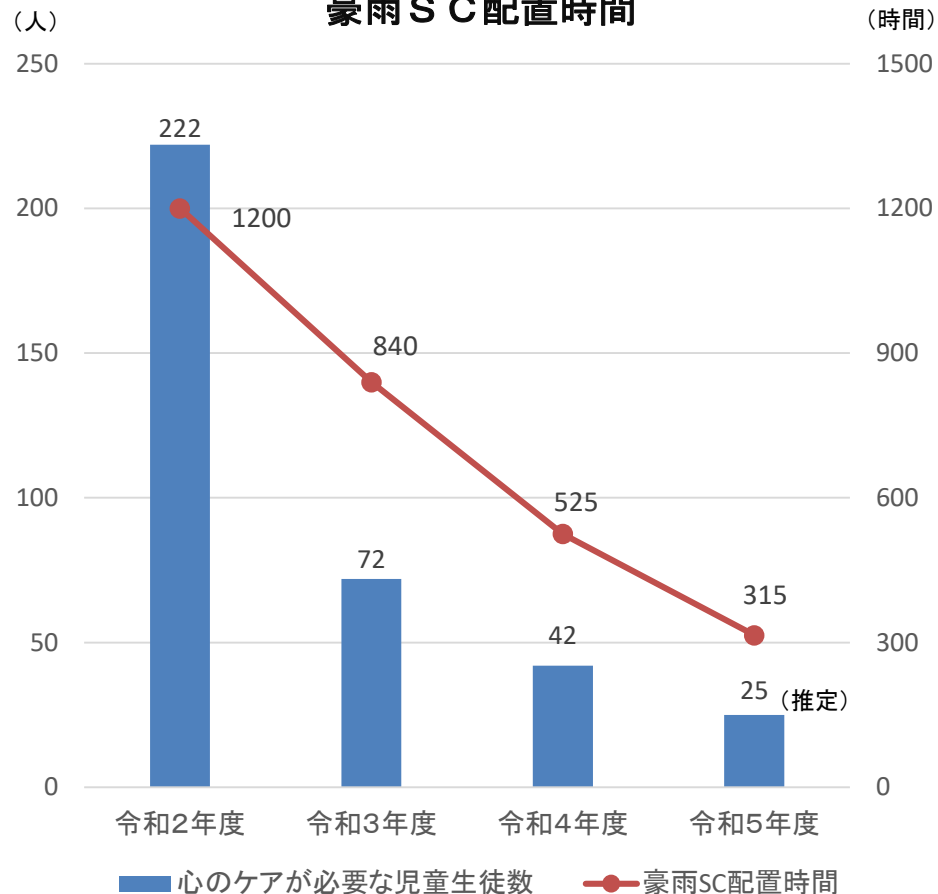
第二中学校

球磨村：渡小学校 一勝地小学校 球磨中学校

○成果

- ・心のケアが必要な児童生徒の把握及び支援の実施
- ・心のケアが必要な児童生徒の減少

心のケアが必要な児童生徒数と豪雨SC配置時間



【重点取組】

豪雨対応SCの配置等による児童生徒の心のケアを継続

球磨川流域の魅力ある学校づくり

〇熊本県立高校One Teamプロジェクト事業（高校間連携）

＜令和4年度末までの取組と成果＞

ハジアイ（支え合い）でつむぐタテとヨコ
～未来へつなぐ、私たちのふるさと～

人吉球磨地域の県立4高校（普通、商業、工業、農業）それぞれの強みを活かし、地域団体、地元小学校等と連携し、和綿の生産、商品開発及びPRを実施

学校名	主な役割
人吉高校	PR、ドローンでの動画撮影
球磨工業高校	綿繰り機のメンテナンス
球磨中央高校	商品開発・販売
南稜高校	綿の芯止め・草払いの指導

※農作業は全校で実施



収穫の様子（地元幼稚園等と）



綿繰り機（球磨工業高校開発）

＜令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組＞

【到達イメージ】

人吉球磨地域の高校生が夢に挑戦できる魅力ある県立高校づくり

【重点取組】

熊本県立高校One Teamプロジェクト事業等により、球磨川流域の県立高校の特色化・魅力化を推進



〇ICT教育の推進

＜令和4年度末までの取組と成果＞

〇グーグル等との連携による各種研修や各学校の特色ある、取組への支援

- ・教職員向け端末活用習熟度別研修の実施
- ・生徒向けキャリア研修（八代清流高校、芦北高校）等の実施
- ・YouTubeを活用した観光PRや学校紹介等のサイト作成支援（人吉高校、芦北高校）



グーグルによる端末活用研修（R4.6～10）



インテルと連携した八代清流高校生徒向け研修(R4.12)



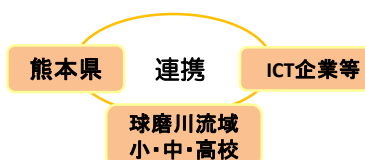
人吉高校の学校紹介等のYouTube投稿チャンネル(ぎゃんとこ人吉Ch.)

＜令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組＞

球磨川流域におけるICT教育の方向性

取組の基本的考え方

- 〇日本をリードするICT教育先進地へ
- 〇子ども1人1人が夢の実現に向けて学べる環境づくり
- 〇夢を実現するために、ICTを活用した学力・体力・技術力の向上



目指す姿

球磨川流域から全国へ発信し、世界とつながるICT教育の実現

【重点取組】

グーグル等との連携による各種研修（端末活用研修・生徒向けキャリア研修等）や各学校の特色ある取組（総合的な学習/探究の時間での地域課題解決等）への支援の実施

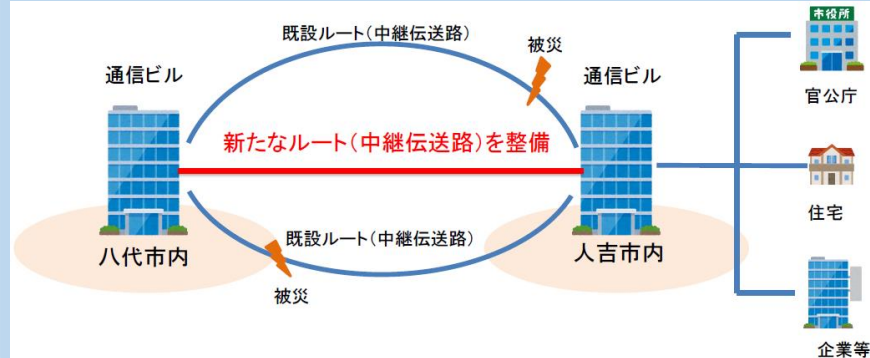
高速・安定・持続可能な情報通信基盤の確保

発災からこれまでの取組みと成果

<熊本県総合行政ネットワーク回線の多重化>



<民間の通信ネットワークの多重化>



実現に向けた今後の取組み

<インターネット>

- ・遠隔診療やスマート防災等の最先端サービスの提供に向けて、市町村の公設公営からの民営化を含め、インターネットの高速化・安定化を進める。
- ・民営化による高速インターネットサービスを八代市坂本町(R5.3)、湯前町(R5.4)で開始。

<携帯電話>

- ・国や通信事業者に対し、不感地域の解消や、5Gの優先的な整備を要望。
県内の不感地域は、令和5年度中に解消の見込み。
(4G、居住地ベース、いずれかのキャリアが利用可能な環境)
- ・災害時等に、他事業者のネットワークを利用できる事業者間ローミングの体制構築を国に要望しており、総務省において検討中。



川岳交換所整備(八代市坂本町)

**地域の魅力の
向上と誇りの回復**

<令和4年度末までの取組と成果>

○観光施設等の再開支援

人吉温泉



復旧率 (R5.2月末時点)
90.9%
(3施設が復旧中)

ラフティング、球磨川くだり



令和4年度に再開

球泉洞



令和4年4月再開

文化財



被災した国・県指定等文化財の72.0%が復旧 (R5.2月末時点)

○『人吉球磨豪雨被災地観光復興戦略』に基づく取組み



▲ 球磨川での新たなアクティビティ導入実証



▲ 夜のイベント実施 (「夏目友人帳」影絵)



▲ デジタルマップ作成

<令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組>

○『観光復興戦略』の方向性に沿った取組み

- 球磨川での新たなアクティビティの本格導入
- コワーキングスペースを活用したワーケーションの推進



- 周遊促進・利便性向上に繋がる企画の実施 (Kumaラボの取組も活用)

○その他新たな動き



- 『くまモンタウン人吉』(くまモンランド化構想)

くまモンと地域の食や体験・宿泊サービスを掛け合わせ、新たな19のコンテンツを創出



- 青井阿蘇神社国宝記念館完成予定 (R5年6月)

観光地としての復活 + 新たな顧客獲得

後押し

○旅行助成事業の実施
「くまもと再発見の旅」終了後、豪雨被災地を対象に切れ目なく実施

○旅行助成事業の実施

くまもと再発見の旅

豪雨被災地送客促進事業



<令和4年度末までの取組と成果>

○球磨焼酎の魅力発信



球磨焼酎蔵ツーリズム協議会
への商品造成支援



屋台村と連携した周知イベント

○球磨焼酎の販路拡大



(大阪) 大型商業施設での熊本フェア (6施設122店舗が参加)

(国内外コンペティションにおける受賞の一部)



プラチナ
賞



Kura
Master2022



最高
金賞



TWSC2022



金賞



IWSC2022

<令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた
重点取組>

○球磨焼酎の魅力発信

- ・蔵元の歴史調査や密着取材を踏まえた、球磨焼酎の魅力発信
- ・インバウンドをターゲットとした蔵ツーリズムの推進



新たなファンの獲得



○球磨焼酎の販路拡大

- ・県外大都市の百貨店や飲食店等と連携したフェアの継続
- ・商品開発への支援、商談会・展示会・コンペティション参加支援



取引先の拡大、
付加価値創出・商品力向上



球磨川流域大学構想

球磨川流域を1つのキャンパスと位置づけ、球磨川流域の**魅力ある自然や恵みを生かした様々な「学び」「研究」「交流」の場を創出**することで、**若者が“残り” “集まる”魅力あふれる地域の実現**を目指す。

最先端治水研究

◆ 産学官民の連携



- 民間企業、熊本県立大学、相良村、民間団体、等が連携し、湿地保全活動を実施。今後、湿地を活用した治水研究を予定。

◆ 大学間の連携



- 東京大学先端科学技術研究センターと熊本県立大学が連携に向けた協議や現地視察を実施。

◆ 「ひごラボ」による地域課題の解決



- 「ひごラボ」と熊本県立大学緑の流域治水研究室が連携し、緑の流域治水と産業創生に係るワークショップを開催
- ひごラボの取組みにより地域課題と課題解決の提案とのマッチングが22件成立

◆ 球磨村復興未来トーク



- 大学コンソーシアム熊本が主催する地域課題解決のための政策アイデアコンテストで球磨村をテーマに発表した学生と、球磨村の若手職員が「村が目指す方向性」について意見交換を実施

◆ 人吉高校における新たな学びの創出



- 人吉高校では、熊本県立大学が開校している球磨川流域圏バーチャルキャンパスの全17講座を1年生全員が受講
- 特別授業として熊本県立大学柴田教授による対面での講義も実施

“学び・交流”の場の創出

◆ 大学における活動



- 球磨川流域でのフィールドワーク等を通して検討したまちづくりや観光振興のアイデアを、熊本県立大学は人吉市に、尚絅大学は球磨村に提案
- 熊本大学では前年度に演習で学んだ球磨焼酎振興をサークル活動で継続し、球磨焼酎酒造組合と連携したガラチョココンパやイベントを開催

◆ 緑の流域治水勉強会

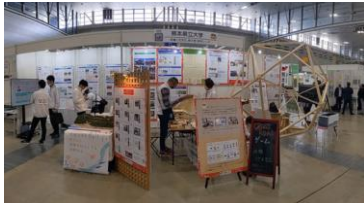


- 県職員を対象に勉強会を開催し、国、企業、大学関係者等も参加。
- 球磨川流域での現地視察も実施。

球磨川流域大学構想(熊本県立大学の取組)

<令和4年度末までの取組と成果>

・被災地域復興・再生支援事業(R2~)



◇研究・活動支援(R2~R3)

熊本県立大学の様々な研究室が被災地域復興・再生に向けて活動を実施。

*左写真

R4.11.9~10 グランメッセ熊本 先進建設・防災・減災技術フェアin熊本での成果展示



◇無料オンライン講座

「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」の開講(R3~)

<実績>

R3(プレ実施) 4講座(207人受講)

R4(本格実施) 17講座(557人受講)

環境共生学部 柴田祐教授 講義風景

・「緑の流域治水」に関する最先端の研究活動



商品化に向けスタディツアーを試行



全体会議(R4.12.17~18)を開催

JST共創の場形成支援プログラム採択(R3.10)

人吉市内に現地拠点を開設(R4.4)

南稜高校に雨庭を設置(R4.10)

スタディツアーを試行(R4.10)

相良村で湿地保全活動を開始(R4.11)

拠点研究の全体会議を開催(R4.12) など

<令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組>

・無料オンライン講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」 ～被災地域・復興再生支援事業～



R4年度募集チラシ

・R5年度末の到達イメージ

球磨川流域圏バーチャルキャンパスの学びを通じて、被災地域への興味と関心が高まり、持続的な復興支援の輪が広がる。

・重点取組

球磨川流域圏の文化・歴史・環境、そして流域各地域の個性にもスポットを当てながら、飽きの来ない内容に講座をリニューアルし、R5年度も継続実施。

・講座数: 13~15講座(調整中)

・時期: 9月~令和6年2月

・「緑の流域治水」に関する最先端の研究活動



整備中の実験水路



県職員向けの勉強会

県立大学内に実験水路を整備、実証実験を開始
行政職員や市民向けの啓発活動の展開(勉強会/シンポジウム)
社会実装に向けた取組を促進(吉尾川/庭園砂防等) など

復旧・復興プランの
実現に向けて

復旧・復興事業の着実な実施に向けた取り組み

①令和2年7月豪雨に係る職員確保状況(令和5年度分)

- 被災6市町村から技術職員26人、事務職員11人、**計37人の派遣要望**あり。
- これに対し、「復旧・復興支援技術職員派遣制度(総務省)」(※1)の運用延長や被災市町村と県による派遣要請活動等の結果、**37人全ての職員を確保**。
 - ①県内外の自治体(県・政令市等)から**技術職員21人、事務職員4人**
 - ②**本県の技術職員3人(※2)** (本県では初となる総務省制度活用による技術職員の派遣)
 - ③被災市町村における任期付職員(技術職員2人、事務職員7人)の採用
- このほかにも、被災市町村のトップマネジメントサポート等のため、令和4年度に引き続き、**別途本県職員7人を派遣**。(※3)

(※1)「復旧・復興支援技術職員派遣制度」

- ・ 都道府県等が技術職員を増員し、平時には技術職員不足の市町村を支援、大規模災害時など有事の際には被災地に対する中長期派遣要員として確保する仕組み。

(※2) 制度に基づく本県職員の派遣先:人吉市(建築職1人)、五木村(林業職1人)、球磨村(農業土木職1人)

(※3) 本県職員の派遣先:人吉市(3人)、球磨村(4人)

令和5年3月現在 (単位:人)

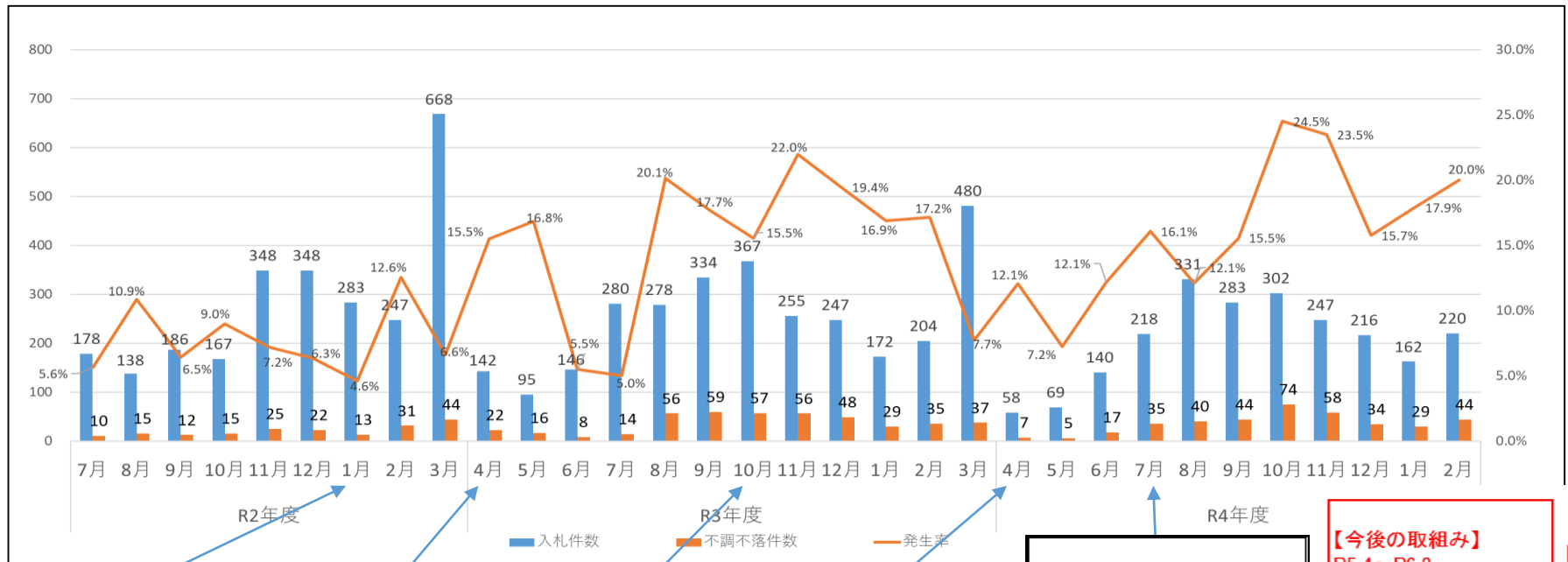
市町村	派遣要望数	確保数			備考
		職員派遣	任期付職員採用	合計	
八代市	1	1		1	
人吉市	18(9)	10(2)	8(7)	18(9)	・「復旧・復興支援技術職員派遣制度」による本県職員派遣(建築職1人)を含む。 ・トップマネジメントサポート等のため、別途、本県職員を3人派遣。
芦北町	8	7	1	8	
五木村	1	1		1	・「復旧・復興支援技術職員派遣制度」による本県職員派遣(林業職1人)を含む。
山江村	2	2		2	
球磨村	7(2)	7(2)		7(2)	・「復旧・復興支援技術職員派遣制度」による本県職員派遣(農業土木職1人)を含む。 ・トップマネジメントサポート等のため、別途、本県職員を4人派遣。
計	37(11)	28(4)	9(7)	37(11)	

※()内の数値は、事務職員数。

復旧・復興事業の着実な実施に向けた取り組み

②令和2年7月豪雨災害以降の不調不落の推移と入札契約制度の見直し状況

- これまで、指名競争入札対象の拡大や復興JVの導入など、数度の入札契約制度の見直しを行い、不調・不落対策に取り組んできた。
- 不調・不落の状況や今後の発注見込み等を勘案し、県南3地域（八代・芦北・球磨）において、**復興JV制度等の対策を令和5年度末まで1年間延長**する。



【第1弾】
R3.1～
・災害関連等工事の指名競争入札の対象拡大

【第2弾】
R3.4～R3.9
・指名競争入札の対象拡大に国土強靱化事業等を追加し、R3.9までの終期設定

・総合評価落札方式(簡易型)の対象拡大

【第3弾】
R3.10～R4.3
・災害関連等工事(土木一式工事)の指名競争入札の対象拡大を延長

R3.11～R5.3
・災害型総合評価制度・復興JVの導入

【第4弾】
R4.4～R4.9
・指名競争入札の対象拡大の延長

R4.4～R5.3
・復興JVの一部見直し(A2参入の促進)

【第5弾】
R4.7～R5.3
・災害関連等工事(土木一式工事B等級)の発注標準引き上げ

※B等級発注標準を500万円～3000万円に見直し(見直し前:500～1500万円)
※対象:県南3地域(八代・芦北・球磨)

【今後の取組み】
R5.4～R6.3
・災害型総合評価制度・復興JVの延長

R5.4～R6.3
・災害関連等工事(土木一式工事B等級)の発注標準引き上げの延長

※対象:県南3地域(八代・芦北・球磨)

球磨川流域復興基金の活用

- 令和5年度は、総額12億円の予算を確保。今年度に引き続き、既存のメニューに加え、各市町村特有の新たな課題に対して、きめ細かに、かつ迅速に対応できるよう、別途2億円を確保。
- さらに、発災から3年が経過する令和5年度は、「創造的復興」に向けた市町村を後押しするため、新たに4つの支援を追加。

◆ 令和2年7月豪雨被災者等支援交付金 新規メニュー

①災害公営住宅等コミュニティ形成支援

災害公営住宅等における住民主体のコミュニティ形成を促進し、顔の見える関係づくりや互助・共助の取組みを支援するため、自治組織等の活動経費を助成

○負担割合: 県10/10 ○支援対象: 自治組織等

②復興まちづくり拠点施設整備等支援

復興まちづくり拠点施設を整備する市町村、または、拠点施設を整備する地域団体等に対し費用を助成する市町村を支援

○負担割合: 県1/2、市町村1/2

○支援対象: 復旧復興プラン対象市町村

(球磨川流域12市町村及び津奈木町)

③消防体制強化推進

今後の激甚化・広域化する災害に的確に対応するため、消防本部が取り組む消防指令の共同運用や消防広域化の検討など消防力強化に必要な経費を負担する市町村を支援

○負担割合: 県10/10

※補助上限: ①消防指令共同運用 250万円/1消防本部

②消防広域化(①を含む) 500万円/1消防本部

○支援対象: 復旧復興プラン対象市町村を管轄する消防本部

◆ 球磨川水系防災・減災ソフト対策等交付金の新規メニュー

④雨庭の整備

球磨川水系流域治水プロジェクトに基づき、河川への雨水流出抑制を図る「雨庭」の整備に係る費用を支援

○負担割合: 県2/3、市町村1/3 ○支援対象: 球磨川流域12市町村

【これまでの実績額と令和5年度予算】

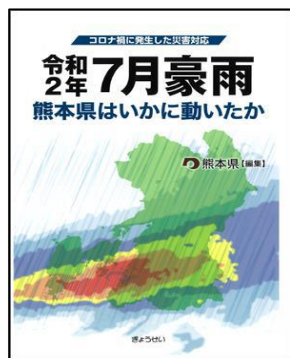
(内訳)	R2実績	R3実績	R4見込	R5予算
生活支援	2,885	7,868	13,211	4,970
宅地の復旧支援	38,694	107,395	15,444	17,332
住まいの再建支援	6,310	75,736	450,699	575,598
施設等の復旧支援	14,027	103,003	33,962	307,517
産業支援	2,363	10,318	2,432	11,496
防災・減災対策	122,298	222,363	314,916	106,582
復興まちづくり支援	—	—	—	34,000
新たなメニュー	—	—	70,000	200,000
計	186,577	526,683	900,664	1,257,495

令和2年7月豪雨の後世への伝承

- 県では、令和2年7月豪雨災害とその対応等について後世に残し、今後の防災等に役立てられるよう、写真や映像等の関連資料を取りまとめ、HPでの公開や書籍化を実施。
- 防災センター1階展示・学習室において、教訓や災害対応のノウハウ等の発信、防災研修に取り組む。

■令和2年7月豪雨及びその対応等の取りまとめ

熊本災害デジタルアーカイブ(ホームページ)



デジタルアーカイブサイトでは、被害の実情や県・市町村、消防・警察・自衛隊などの活動をはじめ、「記録や検証」、「被災地の定点撮影」、「各首長のインタビュー」などの資料を収集・保存・公開

(R5年2月末現在:約8万件収集)

◀ 令和2年7月豪雨における災害対応の振り返りを冊子化(R3年12月発行)

■県防災センター展示・学習室の整備



1階 展示・学習室

▲ 防災センターイメージ図

熊本地震や令和2年7月豪雨災害など、**本県が経験した自然災害に関する展示を実施**(R5年5月オープン予定)



▲ 展示・学習室イメージ図

五木村の振興について

- 昨年6月、知事が五木村を訪問し、五木村の新たな振興の方向性を示して以降、村政座談会などを通じ、幾度となく村民の御意見・御要望を伺い、それらを踏まえ、10月には五木村の新たな振興計画の案を五木村に提示。
- また、12月定例県議会で議員提案による「五木村振興推進条例」が改正され、新たな振興計画の実効性と継続性を担保する、中長期的な財政支援の表明を行うなど、新たな計画の下での村の振興に向け、村と協議を重ねてきたが、今年度中の合意は困難な状況。
- 引き続き、令和5年度中の出来る限り早い時期に、新たな振興計画について合意できるよう、国・県・村で協議を続けるとともに、協議が整った取組みから、速やかに村の振興を進めていく。



相良村の振興について

- 流水型ダムの建設地となる相良村の振興を推進するため、昨年9月に田嶋副知事をトップとする「相良村振興推進会議」を設置。
- 昨年10月には、吉松村長から相良村の振興策についての提案を受け、「第1回 相良村振興推進会議」を開催。
- 3月27日に「第2回 相良村振興推進会議」を開催し、相良村の振興策に対する県の支援策を取りまとめる予定。

相良村吉松村長から村の振興策の提案
(R4.10.7)



主な相良村の振興策



国道445号の改良等



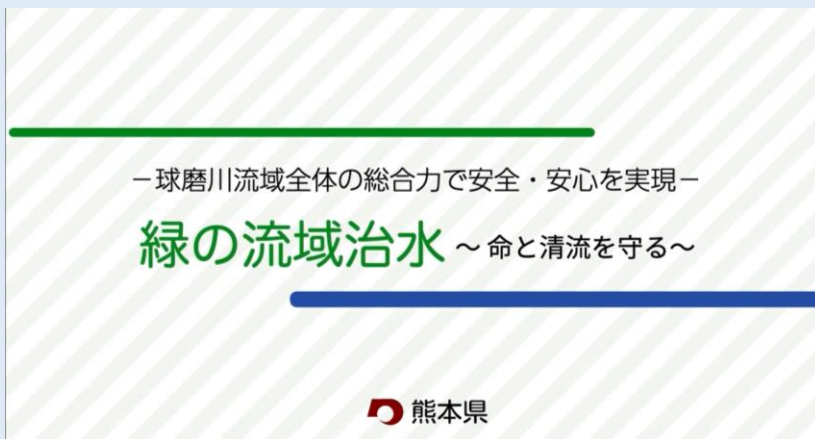
川辺川魅力創造事業

「緑の流域治水」の取組み等の見える化

資料3

- 「緑の流域治水」について、球磨川流域住民をはじめ広く県民に情報を発信するための **見える化の取組み**として、**本年3月、球磨川流域の地形や河川の特徴、「緑の流域治水」の取組み内容を分かりやすく伝える動画、立体地図、パネル、パンフレットを制作。**
- 今後、**あらゆる機会を捉え、これらのコンテンツを活用した情報発信**を行う予定。

【動画】



【立体地図】



【パネル・パンフレット】



【雇用確保に向けた取組み】

旅館・ホテルの再開など復興が本格化する中、地域内における人材確保が大きな課題。球磨局では、「ワンストップ就労相談窓口」設置にあわせ立ち上げた「球磨地域産業振興連絡会議」で人材確保にかかる情報共有や意見交換を実施。

1月に事業所向け魅力度アップセミナー、2月に管内初の就職相談・マッチング会を開催、3月に「みらい球人誌」を発行するなど関係団体と連携し、雇用施策を強化。さらに、管内主要企業の人材確保状況に関するヒアリングを本庁と連携して実施中。



「球磨地域産業振興連絡会議(R4.7)」



「就職相談会(R5.2)」

【球磨川流域大学構想 地域課題の解決】

JICAと球磨局が連携して取り組むマッチングプラットフォーム「ひごラボ」では、50件以上の企業提案をいただき、地域情報発信、再エネ導入や森林保全などで22件がマッチング。また、2月には県立大「緑の流域治水プロジェクト」と連携し「緑の流域治水&産業創生ワークショップ」を開催。産学官30団体による実践発表やマッチング交流会を実施。



「緑の流域治水&産業創生ワークショップ(R5.2)」



「人吉幽霊寺怪談会(R5.3)」

【雨庭の整備】

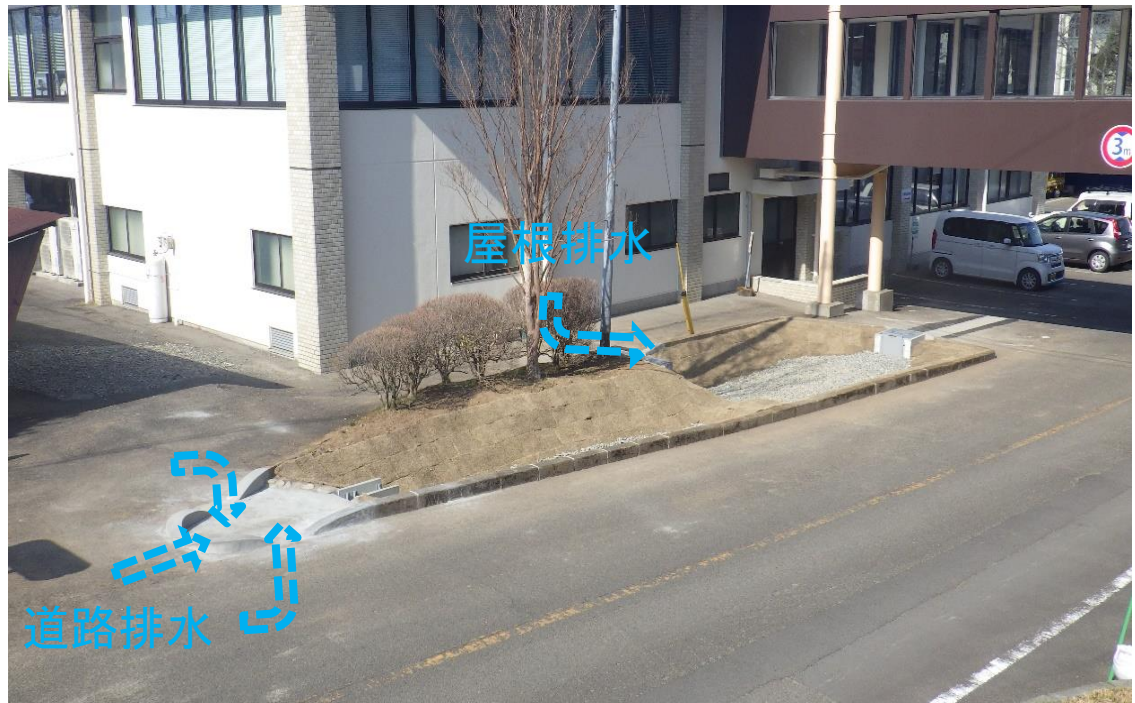
緑の流域治水を推進するため、政策調整事業費等を活用して球磨地域振興局内に雨庭を整備。

県立大の研究フィールドとしても活用をするため、今後、計測機器を設置し、定量的な効果測定を予定。

また、地域の学校と連携した学習機会の提供やフィールドワークなどを通じて雨庭の普及・啓発にも取り組む予定。



「工事前(R4.8)」



「工事後(R5.3)」

【広域連携プロジェクト推進補助金(スクラムチャレンジ)を活用した復興PR】

○人吉市出身の内村光良氏の監督・脚本によりダンスに打ち込む女子高生が夢への第一歩を踏み出す青春物語。8月に人吉高校や南稜高校の生徒が出演し、豪雨の爪痕が残る被災地や仮設商店街、人吉城跡などで撮影、2月に内村氏もリモート参加し、関係者を集めた試写会を開催。

○人吉球磨の魅力を広く発信し、豪雨災害からの復興を後押しするために、球磨川及び川辺川流域5市町村(今回から球磨村をコースに追加)をコースとするトレイルランの第2回大会を開催。



「夏空ダンス撮影風景(R4.8)」



「球磨川リバイバルトレイル(R5.3)」